

租税教育の事例集

～租税教育の充実に向けて～



平成 27 年 4 月 発行

(令和 5 年 11 月 改訂版)

(令和 6 年 6 月 一部改訂)

租税教育推進関係省庁等協議会

〇はじめに

1 租税教育は、なぜ重要なのでしょうか

国民生活や経済社会と密接に関連する税は、私たちの暮らしや社会に欠かせない多様な公共サービスを提供する国や地方公共団体の活動の財源であり、国の様々な制度の中でも根幹的なものです。

憲法で国民の義務に掲げられているように、国民が教育を受け、勤労し、税を納め、持続可能な社会を作っていくことは、民主国家の維持・発展にとって欠かせないことであり、次代を担う児童・生徒等が、国の基本である税の役割や申告納税制度の意義、納税者の権利・義務を正しく理解し、国や社会の在り方を主体的に考えることは、民主国家の維持・発展にとって極めて重要なことであると考えられます。

また、教育基本法は、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」（第1条）と定めており、教育の目標については、「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」（同法第2条1項3号）と定めています。社会や国を支える税の意義や役割を深く理解し、税を通して社会や国の在り方について考える租税教育は、正に教育基本法の理念に基づいた教育であると考えられます。

2 租税教育の充実に向けた取り組み

文部科学省、総務省、国税庁は、平成23年に租税教育推進関係省庁等協議会（いわゆる「中央租推協」）を発足させ、賛助会員である日本税理士会連合会の協力も得ながら、租税教育の推進に取り組んでいます。

全国各地においても、教育委員会など学校教育関係者、地方自治体、国税局・税務署、税に関係する民間団体の関係者の方々などから構成される租税教育推進協議会等を中心として、租税教室（出前授業）の開催や税の作文募集のみならず、例えば、職業体験施設における税務署の仕事や納税の体験、鉄道やバスに乗り税の関連施設を探す移動租税教室、教員を対象とした確定申告体験、税理士が母校で行う租税教室の開催など、様々な工夫を凝らした租税教育の取り組みが実施されています。

3 租税教育の事例集の活用について

平成27年4月、中央租推協では、教員等の意識啓発を図ることを目的とし、全国で行われている租税教育の優れた取組事例などを基に、監修者の先生方の御指導・御協力をいただき、事例集を作成しました。

その内容は、学習指導要領及び同解説の記述を踏まえたものとし、その構成は、①税の授業の経験が少ない方には創意工夫を生かした授業づくりに活用できる学習指導案を、②税の授業の経験が豊富な方には授業づくりのヒントとなるページ（素材やそのつかませ方を例示した教材化の視点）を、③更には各学校段階の授業において取り上げたい要素を一覧に整理した体系図を添付するなど、租税教育に関する様々な立場の方に広く御活用いただけるつくりとしています。

租税は、社会との一つの接点であり、児童・生徒に社会と自分との関わりを具体的に理解させる観点から、社会科、公民科以外の時間にも取り扱うことが考えられます。この事例集を広く関係者の方々に周知・配布していただき、よりよい租税教育の授業づくりのため、関連する教科・時間などにおいても、是非、御活用いただきますようお願い申し上げます。

〇御利用に当たっての留意点

- ・各事例の学習内容や指導方法は、税についての学習内容や方法等を限定したものではなく、税に関する理論等を定めたものでもありません。児童・生徒の実態等に応じて、創意工夫を生かして御活用願います。
- ・体系図は、租税教育の学習内容等を限定、又は、取り上げる順番を固定するものでもありません。
- ・事例集に記載している「副教材」とは、各地域の租税教育推進協議会等が、地域の情報を取り入れ、工夫して作成している補助教材を指しますが、各事例の学習内容に全て対応しているものではありません。
- ・本事例集は、平成29年3月に改訂された小・中学校の学習指導要領及び平成30年3月に改訂された高等学校の学習指導要領に基づき作成していますが、本文中の数値については、本事例集改訂時における最新の数値となっています。

目次

【小学校】

- 事例1 「我が国の政治の働き」(令和5年 11 月追加) 3
➢ 私たちの人権を保障する税の働きを知り、国民主権を担う一員として税と自分の関わりを考える授業例
- 事例2 「私たちの願いを実現する政治」(社会保障) 6
➢ 地域の人々の願いを実現する税の役割を知り、視聴覚教材により税の必要性を考える授業例
- 事例3 「私たちの生活と政治の働き」(自然災害からの復旧や復興) 9
➢ 災害復旧の取り組みを調べ、地方公共団体の働きを支える税の役割の理解に重点を置いた授業例
- 事例4 「政治の働きを支える税」(地域の開発や活性化) 12
➢ 市民が納める税によって地方公共団体の活動が行われていることの理解に重点を置いた授業例
- 紹介 「税について考えてみよう」(令和5年 11 月追加) 14
➢ 様々な視点や方法で「税」に触れ、「税」に関心をもつことに重点を置いた授業例

【中学校】

- 事例1 「私たちの生活と税の役割」 20
➢ 外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例
- 事例2 「税の仕組みや種類と私たち」 24
➢ 税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例
- 事例3 「財政の現状と課題」 26
➢ 税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

【高等学校】

- 事例1 「よりよい税制を考えてみよう」(令和5年 11 月追加) 30
➢ 主体的・対話的な学習を通し、租税の在り方について考えを深めていく授業例
- 事例2 「累進課税制度について考えてみよう」 34
➢ 主体的・対話的で深い学びとなる、公平な税制について主体的に考察する授業例
- 事例3 「主権者として、納税の意義を考える」 38
➢ 税の機能や意義を理解し、納税者としての意識を醸成することに重点を置いた授業例

【大学(教員養成大学)】

- 事例 「教育学部における租税教育研究」 41
➢ 大学講師、学生、税の専門家が協働して税の授業づくりを行う事例

【参考】

- 参考1 租税教育の体系図 (学校段階と授業において取り上げたい要素) 43
- 参考2 小学校の学習内容と教材化の視点の例 44
- 参考3 中学校の学習内容と教材化の視点の例 46
- 参考4 高等学校の学習内容と教材化の視点の例 51

(国税庁ホームページ「税の学習コーナー」の紹介)

【紹介】学校段階ごとに多く行われている授業や特色ある取り組みの例

- ・小学校(高学年)では、児童の関心を高めるため動画を視聴し、「税が無かったらどうなるか」を自ら考えさせることにより、税の必要性などを理解する租税教室(出前授業)が多く行われています。
なお、学習指導要領において、「租税の役割などについて扱うこと」、「国や地方公共団体の政治」については、「社会保障、自然災害からの復旧や復興、地域の開発や活性化などの取り組みの中から選択して取り上げる」とされていることから、事例集ではこれらの事例を掲載しています。
- ・中学校では、動画を視聴し、税の必要性を理解するほか、グループ討議などを行い、日本の財政の現状や課題について考える授業などが多く行われています。
- ・高等学校では、公民科の授業以外にも、総合的な探究の時間を活用した租税教室や、キャリア教育の中で税に関する仕事を紹介するなどの取り組みが行われています。
- ・大学における教員養成課程では、日本税理士会連合会の寄附講座開設により、租税教育をテーマとした教育研究が行われるなどの取り組みが進められており、近い将来に、教員となる学生による税の授業づくりなどが行われています。

【小学校】事例1「我が国の政治の働き」

ポイント▶ 私たちの人権を保障する税の働きを知り、国民主権を担う一員として税と自分の関わりを考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第6学年／社会科（(1)我が国の政治の働き（ア（ア）（ウ）イ（ア）））
- ※ 次の2つの小单元から構成
- 小单元1：私たちの暮らしと日本国憲法
- 小单元2：我が国の民主政治

○小单元1（私たちの暮らしと日本国憲法）の目標

- ・日本国憲法は、国民としての権利や義務など、国家や国民生活の基本を定めていることや、我が国の民主政治は日本国憲法の考え方に基づいていることを理解できる。
- ・日本国憲法の基本的な考え方に着目して、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考え、表現できる。
- ・我が国の政治の働きについて、主体的に問題解決しようとする。

○指導計画（5時間・各1時間）

【単元を貫く問い】私たちの暮らしと日本国憲法は、どのようにつながっているのだろう

第1時 日本国憲法って何だろう。

第2時 日本国憲法は、国民主権についてどのように定めているのだろう。

第3時 暮らしの中で、私たちの基本的人権はどのように守られているのだろう。＜本時＞

第4時 人権保障の考えは、どのように広がっているのだろう。

第5時 平和を実現するために、どのような努力が続けられているのだろう。

○本時の学習

1 本時の目標

暮らしの中の権利と義務について調べ、日本国憲法で保障されている権利が、私たちが納める税によって守られていることを理解できる。

2 本時の展開（3／5時間）

租税の意義・役割・課題

納税の義務

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料
導入	1 日本国憲法には、基本的人権についてどのように書かれているのだろう。 ※生命、自由及び幸福の追求に対する国民の権利は、侵すことのできない永久の権利として国民に保障されている。 ※国民の権利を保持するためには、国民の不断の努力を必要とする。 2 本時の学習課題を確認しよう。 暮らしの中で、私たちの基本的人権は、どのように守られているのだろう。	・日本国憲法第11条 ・日本国憲法第12条
展開	3 私たちの暮らしの中にある、「教育を受ける権利」に関わる施設について調べよう。 (1) こども図書館について調べよう。 ・どのような図書館だろう。 ・どのような人が利用しているのだろう。 (2) 子供の「読む権利」を保障することがなぜ大切なのか、学校図書館の司書の先生に伺おう。	・子供たちに読書の機会を提供するだけでなく、子供の読書活動に関わる人たちが学び、交流する場になっていることを押さえる。 ・子供たちのもつ可能性を開くためには、子供たちの「成長・発達の権利」を保障することが必要であり、そのためには、教育を受ける権利、子供自身の学習する権利、読む権利の保障が重要であることを押さえる。

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料
展開	(3) 子供たちの「読む権利」の保障は、憲法に定められた国民の義務とどのように関係しているのだろうか。 ・ こども図書館の建設費は、どのようにして賄われたのだろうか。 ※こども図書館は、「税金（＝国民から集めたお金）」で賄われている。 →税金のおかげで、「読む権利」が守られている。	・ 憲法には、権利だけでなく義務についても記されていること、国民には納税の義務があること（憲法第30条）を押さえる。 ・ 税金が、権利を守るために使われていることを押さえる。
まとめ	4 教育を受ける権利、読む権利をはじめとする権利と義務の関係について、考えたことをまとめよう。	

3 評価規準

【知識・技能】

暮らしの中の権利と義務について調べ、日本国憲法で保障されている権利が、私たちが納める税によって守られていることを理解している。

○小単元2(我が国の民主政治)の目標

- ・ 我が国の民主政治は、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解できる。
- ・ 日本国憲法の基本的な考え方に着目して我が国の民主政治を捉え、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現できる。
- ・ 我が国の政治の働きについて、主体的に問題解決しようとする。

○単元計画

第1時 私たちの暮らしと法やきまりは、どのように関わっているのだろうか。

第2時 国会の働きについて調べよう。＜本時＞

第3時 内閣の働きについて調べよう。

第4時 裁判所の働きについて調べよう。

第5時 私たちの暮らしを守るための政治の仕組みは、どのようになっているのか、自分との関わりから考えよう。

○本時の学習

1 本時の目標

- ・ 国会では、選挙で選ばれた国民の代表者である国会議員が話し合っ、法律や予算を決めていることを理解できる。
- ・ 選挙、予算、税金のキーワードを使って、国会と私たちとの関わりについて考え、表現できる。

2 本時の展開(2／5時間)

国民主権

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料
導入	1 前単元（小単元1）で学習した「こども図書館」は、K市だけにあるのだろうか。 ※全国的につくられている。 ※国も「子どもの読書活動の推進に関する法律」をつくり、子供たちの読書活動を進めている。 2 本時の学習課題を確認しよう。 K市でこども図書館がつけられる基となった、国の政治の仕組みはどうなっているのだろうか。	
展開	3 国会について調べよう。 ・ 国会では、どんな仕事をして（どんなことを話し合っ）いるのだろうか。 ・ 国会議員は、誰が、どうやって決めているのだろうか。 ・ 国会で決められた予算や法律は、私たちの暮らしとどのように関わっているのだろうか。	・ 「子どもの読書活動の推進に関する法律」を例に、法律が、国が進めようとしている政策の重要性や、そのために、国や地方公共団体がするべ

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
展 開	※国会では、国民の生活に関わる法律や政治を進めるための予算などを話し合って決めている。 ※国会議員は、国民による選挙で決められる。	きことを記していることを押さえる。 ・国会で決められる予算とは、税金の集め方や使いみちであることを押さえる。
	4 国会と私たちとの関わりについて、「選挙」、「予算」、「税金」の語を使ってまとめよう。	・まとめることが難しい児童には、図で整理するように指示し、「国会」と「国民」の2つの語の間の矢印を引き、「選挙」、「予算」、「税金」がどのように関わるのか考えさせる。 ・何人かの児童に発表させる。
ま と め	5 国会と私たちとの関わりについて考えたことをまとめよう。	・国会と私たちとの関わりについて考えたことをまとめさせる。

3 評価規準

【知識・技能】

国会では、選挙で選ばれた国民の代表者である国会議員が話し合って、法律や予算を決めていることを理解している。

【思考・判断・表現】

選挙、予算、税金のキーワードを使って、国会と私たちとの関わりについて考えたことを、表現している。

【小学校】 事例2 「私たちの願いを実現する政治」(社会保障)

ポイント➤ 地域の人々の願いを実現する税の役割を知り、視聴覚教材により税の必要性を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第6学年/社会科((1)我が国の政治の働き(ア (イ) (ウ) イ (イ)))

○単元の目標

- ・国や地方公共団体の働きについて、公共施設を見学したり、各種資料を活用したりして調べたことをまとめるとともに、私たちの生活には政治の働きが反映していることを理解できる。
- ・政治が人々の願いを実現するうえで、税が大切な役割を果たしていることを理解できる。
- ・人々の願いを実現するための政治の仕組みを基に、自分も政治に関わることができることを自覚し、よりよい社会をつくるために自分にできることを考えようとする。

○指導計画 (7時間・各1時間)

次	時	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準
第1次 子育て支援センターの事例を通して、人々の願いを実現するための政治の働きについて調べる。				
	1 子育て支援センターの見学	○利用者にインタビューし、幼い子供をもつ親の願いについて話し合う(親は、安心して子供を育てられる仕組みが欲しいという願いをもっていること)。 ○単元を貫く問いの設定 私たちのまちに暮らすいろいろな人の願いを実現するために、どのような社会の仕組みがあるのだろう。	支援センターで行っている活動の様子やアンケートの結果から、利用者の願いについて考えるよう促す。	(主体的に学習に取り組む態度) 支援センター利用者の願いや活動の様子について関心をもって調べている。
	2 子育て支援センターの活動	○支援センターを見学したり、所長の話を聞いたりして、どのような目的で、どのような活動が行われているのかを調べる(支援センターでは、幼い子供とその親のために、市民の意見を取り入れながら、様々な活動を行っていること)。	支援センターで行われている様々な活動の目的について考えるよう促す。	(知識・技能) 支援センターの活動が、市民の願いに基づいていることを理解している。
	3 住みよいまちを目指して	○市役所や市議会を見学したり、市役所の人話を聞いたりして、市役所などの働きを調べ、まとめる(市役所などでは市民の願いを実現するために話し合いながら仕事を進めていること。市民の生活には市の政治の働きが反映していること)。	支援センターの活動が始められた経過について、市民の生活向上と安定を図ろうとする市役所などの働きを関連付けて調べるよう促す。	(思考・判断・表現) 私たちの願いを実現するための市の政治の働きについて考え、適切に表現している。
第2次 政治の働きを支える税の大切さについて考える。				
	4 税の働きを調べる	○支援センターを建設したり、運営したりするための費用がどこから出ているのか、収集した資料を基に調べ、まとめる。	支援センターにかかる費用を基に、人々の願いが実現するために税が大切な役割を果たしていることを示す。	(知識・技能) 税が重要な役割を果たしていることについて、資料を活用して、必要な情報を集めて読み取っている。
	5 税について考えよう ＜本時＞	○税の専門家、各地域の税に関する民間団体等及び関係機関等の外部講師による租税教室を通して前時で学んだ税への関心を高め、税が自分たちの生活と密接に関わっていることや税の必要性について理解する(消防活動やごみの収集など、税が自分たちの生活と深く関わっていること)。 ○税が無いとどうなるかまとめる。	視聴覚教材(動画)を活用することで、税が自分たちの生活と密接に関わっていることや税の必要性などについて示す。	(知識・技能) 自分たちの生活と税の関わりについて理解している。
	6 税の大切さを伝えよう	○税に関する絵はがきコンクールや税の標語等に向けての作品づくり等を通して、税の大切さについて考え表現する。	自分なりの表現方法で作成するよう促す。	(思考・判断・表現) 税の大切さを絵や標語等で表現している。

次	時	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準
第3次 学習したことをまとめる。				
	7 学習したことをまとめよう	○支援センターの働きや建設の経過を例にして、私たちのまちに暮らすいろいろな人の願いを実現するための地方公共団体の政治の仕組みについて、市議会、市役所、住民、税金、選挙などの用語を入れて関係図にまとめる。 ○学習したことを基に、よりよい社会をつくるために自分にできることを考える。	関係図の中に「私たち＝住民」を位置づけさせ、政治の仕組みと私たちの関係について、自分の考えをもたせる。	(主体的に学習に取り組む態度) 学習したことを基に、自分も政治に関わることができることを自覚し、よりよい社会をつくるために自分にできることを考えようとしている。

○本時の学習

1 本時の目標

自分たちの生活と税が密接に関わっていることを基に、税の必要性について理解できる。

2 本時の展開(5/7時間)

租税の意義・役割・課題

税の使いみち

税の種類

財政の目的

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	1 本時の学習課題を確認する。 自分たちの生活と税金の関わりを理解し、税金の必要性を考えよう。 2 外部講師の紹介を聞く。	・外部講師を紹介する。
展開	3 外部講師の話を聞き、税について関心をもつ。 (1)知っている税金を発表する。 ※消費税、所得税、自動車税など。 (2)世界の消費税について知る。→日本と欧州各国の消費税率など。 ※国により税率が違うことに驚いていた。 (3)税金の種類(様々な税の集め方)を知る。 日本には全部で何種類の税金があるのでしょうか。⇒約50種類 ※税金の種類の多さに驚いていた。 ※税金はいっぱいあるけど必要なのかな。 4 自分たちの生活と税との関わりを理解し、税の必要性を考える。 (1)税金は必要か、必要でないかを発表する。 ※必要性について意見が分かれていた。 (2)動画を視聴し、自分たちの生活と税金の関わりを理解し、もし税金が無かったらどうなるかを考える。 ※税金の無い世界に驚いていた。 ・税金が無いと困る(消防活動やごみの収集がされないなど)。 ・いろいろな所に税金が使われていることが分かった。 (3)もし税金を納めない人がいたらどうなるかを考え、憲法に納税の義務があることを知る。 (4)学校と税金の関わりを例に、身近な税金の使いみちを理解する。 公立学校に通う児童一人当たりの年間教育費はいくらでしょうか。 →約92万円(令和3年度)。この費用は、税金で賄われている。 →学費にしたら毎月約8万円を学校に支払わなければならない。 ※月謝にして一人当たり約8万円ということに驚いていた。	☆国税庁HP「税の学習コーナー(入門編)」、副教材 ☆国税庁HP「税の学習コーナー(発展編)」、副教材 ☆国税庁動画「マリンとヤマト 不思議な日曜日」(約17分)  ・教科書の裏表紙に「国民の税金により無償で支給」と書かれていることを示す。

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
展 開	(5) 税とは何かを考える。 ・ みんながより豊かで安全・安心な生活を送るための地方公共団体や国の働きに必要な費用は、みんなで分担する必要がある。 ・ 税金は、国民が社会の一員として暮らしていくための会費のようなもの（社会を支えるための会費）。 (6) 国の予算額を知る。 ・ みんなが分担して納めている税金の使いみちは、選挙で選ばれたみんなの代表（国会議員）が話し合って（国会で）決めている。 ・ みんなが分担して納めている税金は、大事に使わなければならない。 ・ 1億円の量と重さを体感し、高額な金額に実感をもつ。 ※ 1億円の重さを体感し、集めた税金や国の予算の大きさ（重み）、お金の大切さを実感していた。 ※ 1億円は 10 kg もある。僕は 4 億円と同じ位の重さだ。 ※ 国の予算は約 110 兆円だからすごい重さだ。	☆ 副教材、1 億円レプリカ  ・ 重さや金額を身近なものや距離で例える。
ま と め	5 税金はなぜ必要なのかについて分かったことを発表する。 6 感想を発表する。 ※ 税金の大切さが分かった。	・ 学習内容を振り返り、児童とともにまとめる。

3 評価規準

【知識・技能】

自分たちの生活と税の関わりについて具体的に例を挙げながら、税の必要性について理解している。

4 まとめ・振り返り(実践を終えて)

- ・ 外部講師による租税教室を実施したことで、児童の関心も高まり、税の大切さを実感することができた。租税教室実施後の児童の日記からもその様子がうかがえた。また、絵を使った資料や動画など、視覚に訴える資料が効果的であった。
- ・ 学校と税金という身近なテーマで考えたとき、具体的な金額を通して税のありがたさに気付くことができた。

【小学校】事例3「私たちの生活と政治の働き」(自然災害からの復旧や復興)

ポイント➤ 災害復旧の取り組みを調べ、地方公共団体の働きを支える税の役割の理解に重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・第6学年/社会科(1)我が国の政治の働き(ア(イ)(ウ)イ(イ))

○単元の目標

- ・聞き取り調査で聞いたことや収集した資料を活用したりして、まとめ、市民の願いを実現し、生活の安定と向上を図るための政治の働きと、その費用は国民が納めた税金によって賄われていることを理解できる。
- ・災害復旧のプロセスに着目して、政治の働きと国民生活の関係を考え、図等にまとめ、表現できる。
- ・安全に暮らしたいという人々の願いを実現するための地方公共団体等の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり学習内容を振り返ったりして学習問題を追究しようとする。

○指導計画(6時間・各1時間)

時	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
1	どのようなことが起こったのだろうか。 被災した町の様子と災害から復旧した町の様子を比較し、その間に何があったのか(どのような災害が発生したのか、災害によってどのような被害を受けたのか、また、災害が起こったときにどのような救援活動などが行われたのか)を想像し、発表し合う。 ○ 単元を貫く問いの設定 安心に暮らしたいという人々の願いは、どのようにして実現されているのだろうか。	☆小学校プールのブロック塀や駅付近の写真 ☆災害復旧後の写真 ☆新聞記事など ・問いに対して予想を立てたり学習計画を立てたりして、見通しをもって学びに取り組めるようにする。
2 ～ 5 (本時)	災害で壊れた道路は、誰がどのように復旧させたのだろうか。 - 市民が市役所に要望を行っている。 - 市役所では、救援活動や災害復旧の計画・実現などを行っている。 - 市議会では、市民の願いを実現するために、話し合いながら仕事を進めている。 災害復旧のための費用は、どのように集められ、使われるのだろうか。 - 災害復旧の取り組みには、税金が使われている。	☆道路の写真 ・地域に住む人々の話 ・市役所や市議会議員の話 ☆市議会における話合いの様子(議事録・写真) ☆副教材
6	- 人々の願いに基づいて、街づくりが進められていること 国の政治は、どのような仕組みになっているのだろうか。 政治を支えるためにできることを考えよう。 - 大人になったら、選挙に行くようにしよう。 - 自分たちの代表者が国会で話し合って決めた税金はきちんと納めよう。 - 今までより、ニュースや新聞を見るようにしよう。	・街づくりについてのインタビュー ・国民一人一人が政治に関わることができることを意識し、将来にわたって生き続ける公民的な資質を育んでいく学習を展開する。

○ 本時の学習(2～5／6時間)

1 本時の目標

- ・聞き取り調査で聞いたことや収集した資料を活用したりして、まとめ、市民の願いを実現し、生活の安定と向上を図るための政治の仕組みと、その費用は国民が納めた税金によって賄われていることを理解できる。
- ・災害復旧プロジェクトに着目して、安全に暮らしたいという人々の願いを実現するための仕組みについて、図等を用いて適切に表現できる。
- ・災害復旧の取り組みを事例に、安全に暮らしたいという人々の願いを実現するための地方公共団体等の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり学習内容を振り返ったりして学習問題を追究しようとする。

2 本時の展開

税の使いみち

国民主権

財政の目的

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点、評価(○)
導入	1 本時の学習課題を確認する。 災害で壊れた道路は、誰がどのように復旧させたのだろうか。 ・問いに対する予想を立てる。 ・現時点で「復旧」に関して見たことや考えていることを出し合う。 ※市役所の人に対応したからではないかな。 ※地域の人が誰かに何かを伝えたのではないかな。 ※どのくらいのお金がかかったのかな。	・災害被災児に配慮を心掛ける。 ・「壊れた道路」と「直った道路」の写真を同時に提示する。 ・道路が直っていく過程にはどのような仕組みや働きがあるのか、どのような人々関わっているのかを中心に予想を出し合わせ、単元を通した追究活動への意欲を高める。 ○主体的に学習に取り組む態度 ⇒ 学習問題に対し予想を出し合い追究活動への意欲を高めている。
展開	2 地域、特に、町内の人々や市役所の人々にインタビューをする。 ・地域に足を運び、現場で仕事をしている人の声を聞くことにより、災害復旧の取り組みを具体的に捉え、追究していく意欲を高める。 ・学習の流れにより、市議会議員や市長などから話を聞く調査活動を行う。 ・市役所や市民など、異なった立場で調べた友達の意見などについてメモを取りながら聞いたり、まとめたりする。 3 様々な立場の人々による災害復旧の取り組みを追究することで分かってきたことや、調べたことを基に、市や国の働きを考えながら、「関係図」にまとめる。	・調べ学習を中心として多くの事実を集めながら、道路が直っていく過程の仕組みなどを解き明かしていく学習を展開する。 ○主体的に学習に取り組む態度 ⇒調べ学習で分かったことと自分の予想を比べたりしながら、学習問題を追究している。 ・児童が調べてきたことを取り上げながら全体で関係図を作り、調べたことを整理する。 ・「関係図」にまとめることで、「壊れた道路」が直っていく過程には人々の願いがあり、それが政治と関わっていることを示す。これらの活動を通して、災害復旧の陰に市や国の政治の働きが反映していることやそれを支え

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点、評価(○)
展開	災害復旧のための費用は、どのように集められ、使われるのだろうか。 ※災害の復旧には、みんなが納めた税金などが使われているんだね。 ※道路を直すには、たくさんの税金が使われたんだな。税金は国や地方公共団体（県や市）で集められるよ。 ※災害発生が予想されていなかったから、市議会は予算を変更する補正予算を議決して災害復旧の費用を確保したらしいよ。 ※税金は、災害復旧の取り組みなど、私たちの暮らしを支えることに使われているんだね。 4 関係図から気付いたことをまとめ、発表する。 ※災害復旧には、市役所や、選挙で選ばれた市の議員の話合いが大きな役割を果たしているんだね。 ※地域の人が、直してほしいところを市役所に要望して、そのための費用には、みんなが納めた税金が使われているんだね。	る税の働きが「見える」「分かる」ようにする。 ○思考・判断・表現 ⇒安全に暮らしたいという人々の願いを実現するための仕組みについて、図等を用いて適切に表現している。 ・税金は災害復旧など国民生活を支えるために使われていることを示す。
まとめ	5 本時を振り返り、学習内容をまとめる。 災害で壊れた道路は、市民の願いにもとづいて、選挙で選ばれた市の議員の話合いによって、みんなが納めた税金を使って復旧された。	○知識・技能 ⇒聞き取り調査で聞いたことや収集した資料を活用したりして、まとめ、市民の願いを実現し、生活の安定と向上を図るための政治の仕組みと、その費用は国民が納めた税金によって賄われていることを理解している。 ○主体的に学習に取り組む態度 ⇒自分の予想や学習のプロセスを振り返りながら、学習のまとめを行っている。

3 評価規準

【知識・技能】

聞き取り調査で聞いたことや収集した資料を活用したりして、まとめ、市民の願いを実現し、生活の安定と向上を図るための政治の仕組みと、その費用は国民が納めた税金によって賄われていることを理解している。

【思考・判断・表現】

災害復旧のプロセスに着目して、安心して暮らしたいという人々の願いを実現するための仕組みについて、図等を用いて適切に表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

災害復旧の取り組みを事例に、地方公共団体等の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習内容を振り返ったりして学習問題を追究しようとしている。

【小学校】事例4「政治の働きを支える税」(地域の開発や活性化)

ポイント➤ 市民が納める税によって地方公共団体の活動が行われていることの理解に重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・第6学年/社会科((1)我が国の政治の働き (ア (イ) (ウ) イ (イ)))

○単元の目標

- ・地域の人々の願いである地域開発の事業や予算、その費用を賄う税金の使われ方について理解できる。
- ・政治は人々の願いを実現するために行われるものであり、そのために税が果たす役割と、それが民主的な手続きにより集められることを考え、表現できる。
- ・学習したことを基に、納税者としての自覚を高め、社会の一員として自分にできることを考えようとする。

○指導計画 (4時間・各1時間)

【単元を貫く問い】

私たちのまちに暮らすいろいろな人の願いを実現するために、どのような社会の仕組みがあるのだろう。

第1時 まちで暮らす人たち

第2時 住みよいまちをめざして

第3時 市の政治と税金の働き<本時>

第4時 単元のまとめ



○本時の学習

1 本時の目標

- ・歩行空間を確保し、商店街を活性化する駅前広場の整備など、地方公共団体の活動に必要な費用は、市民などが納める税金で賄われており、税は私たちがより豊かで安全・安心な生活を送るために大切な働きをしていることを理解できる。
- ・学習したことを基に、納税者として自分にできることを考えようとする。

2 本時の展開 (3 / 4 時間)

税の使いみち

国民主権

財政の目的

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	1 市が行う〇〇駅北口駅前広場整備事業の総事業費を知る。 ※約100億円もかかっているんだ。 2 本時の学習課題を確認する。 〇〇駅北口駅前広場の整備の費用は、どこから出ているのだろうか。 ※税金が使われていると思うよ。 ※私たちの払っている消費税も関係あるのかな。	・身近な地域の開発事業として、まちの玄関口である駅の整備事業を取り上げる。 ・整備事業が国民生活の安定と向上(例えば、交通利便の向上、歩行空間など安全の確保、商店街の活性化など)のために行われたものであることを押さえる。 ☆整備事業の前後における〇〇駅北口駅前広場の様子(写真など) ・事業費の金額をイメージするために身近な公共施設の建設費などと比べる。 ・具体的な金額を提示することで、社会的な負担の必要性を示す。
展開	3 学習課題について、教師が作成した資料や副教材を読み取り、ノートにまとめる。	☆教科書や教師が作成した資料、副教材 ・一人調べの際に副教材を活用するよう助言し、どのような税金がどこに納められているのかを児童と共に確認し、様々な形で国や市に税金が納められていることを示す。 ・国税と地方税があることを示す。

展開	4 各自がまとめた内容についてクラス全体で交流する。 ・100 億円の約半分のお金は国が出している。 ・私たちが払っている消費税や家の人の収入から納める所得税は、国に行くことになっている。 ・残りの約半分のお金は市が出している。 ・地域に住む人たちが納める住民税は、市区町村や都道府県に行くことになっている。 ・私たちの家の人が納めた税金によって、〇〇駅北口駅前広場の整備の費用が賄われているんだ。 ↓ ・〇〇駅北口駅前広場の整備は、交通の利便を向上させたり、歩行空間を創り出して安全を確保したり、商店街の活性化などにもつながる事業だ。つまり、税金は私たちの生活に大切な役割を果たしているといえる。 5 外部講師の話を聞き、思ったことを交流する。 ・〇〇駅北口駅前広場の整備以外にも、教育、警察や消防、公園や道路の整備、ごみ収集、医療や年金など、私たちの生活に欠かせないところに税金が使われているんだ。 ・個人の力では、これらに必要なたくさんの費用を出すことは難しいけれど、みんなが税としてお金を出し合えば、これらの費用を賄うことができるんだ。だから、私たち一人一人がきちんと税を納めていくことが大切だ。	 ・地方税に地方消費税があること、地方消費税は地方公共団体の活動費用に使われていることを示す（消費税及び地方消費税の税率10%のうち2.2%。令和6年4月現在）。 ・全体交流時には、税金の役割についての発言を全体に広め、その発言についてどう思うかを問い、税金と自分たちの暮らしとの関わりを捉えることができるようにする。 ☆副教材を活用 ・外部講師に、地方公共団体や国の税金の使いみちと予算額などについて分かりやすく話をしてもらい、税金の役割が理解できるように説明する（児童の理解が深まるよう、駅前広場の整備以外の身近な税金の使いみちについて話をもらう。また、教科書の裏表紙に「国民の税金により無償で支給」と書かれていることを示す。）。 ・外部講師の話を聞いて思ったことを交流する中で、「豊かで安全・安心な暮らしを支えるのは一体誰なのか。また、そのような暮らしを支えるために大切なことは何か。」と問い、自分たち自身が政治の働きを支える納税者であり、その義務を果たすことが豊かで安全・安心な暮らしをつくり出すことになることを示す。
まとめ	6 学習のまとめをノートに書く。 ※〇〇駅北口駅前広場の整備をはじめとして、国民が豊かで安全・安心な生活を送るための地方公共団体や国の政治の働きに必要な費用は、国や市の税金によって賄われているんだ。 ※そんな大切な役割をしている税金を納めるのは私たち一人一人だ。だから、大人になってもきちんと税金を納めていきたいと思う。	

3 評価規準

【知識・技能】

歩行空間を確保し、商店街を活性化する駅前広場の整備など、地方公共団体の活動に必要な費用は、市民などが納める税金で賄われており、税は私たちがより豊かで安全・安心な生活を送るために大切な働きをしていることを理解している。

【主体的に学習に取り組む態度】

学習したことを基に、納税者として自分にできることを考えようとしている。

【小学校】 紹介 「税について考えてみよう」

ポイント➤ 様々な視点や方法で「税」に触れ、「税」に関心をもつことに重点を置いた授業例

○指導する内容のねらい

- ・高学年で学習するいくつかの単元に関わる「税」についての導入編と位置づける。「税」について様々な視点や方法で触れていくことで、学びを広げ深めるとともに、自分自身のアンテナを広げられるようにする。

○指導する内容の特徴

- ・高学年での学習の前段階（＝導入）として、様々な方法で「税」に触れる。
- ・3年生であったとしても、すでに自分自身も「税」と関わっていることを実感する。
- ・「税」がある場合とない場合の暮らしの違いを、説明を聞いて比較する。

○本時の学習

1 本時の目標

- ・自分自身と世の中を結ぶきっかけになる。
- ・「税」について、様々な方法で考えることができる、ということを体感する。
- ・授業に参加することで、課題に意欲的に取り組めるようになる。

2 本時の展開

租税の種類

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	1 話を聞いて、なぜA君が買い物できずに帰ってきたのか、予想する。 【予想される回答例】 「お金を落とした。」「買いたいものがなかった。」「予算オーバーになってしまった。」「消費税分オーバーしてしまった。」など 2 この授業では、「税」についてみんなで考えることを把握する。 説明後に配付されるワークシートを基に授業が進むことを把握する。	・話はオリジナル。 500 円玉を1枚もって買い物に行ったA君が、買い物できずに帰ってきた。その理由を考える。 ・様々な答えが出てよい。 ・ワークシート『税』について考えてみよう 01』は、2の説明をしてから、配付する。
展開	3 知ってるかな？ 『税』という言葉を知ったり見たことがあるか。」 ワークシート『税』について考えてみよう 01』の3(1)に取り組む。 ・全員が知っている ＝「税」について知っていることを数名発言してもらう。教員は内容を板書やプロジェクターで示す。 ・知らない人がいる ＝数名のグループで情報共有をした後に、上記と同じ流れ。 ワークシート『税』について考えてみよう 01』の3(2)にクラスの仲間の発言をメモする。	・生徒がワークシートにかき出す時には、言葉や絵でかくことも可であることをアドバイスする。 ・生徒の発言は、間違っても指摘しない。自由な発想で発言できる雰囲気を作ります。 ・生徒同士の声をお互いにしっかりと聞くことをアドバイスする。 ・生徒が「税」について、どのような認識をもっているか把握する。

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
展 開	4 調べてみよう 3で出てきた「税」の漢字の意味やなりたちなどを、漢字辞典、国語辞典、百科事典などで調べる。	- 漢字辞典、国語辞典、百科事典を使用する。 (時間があれば生徒個人で。時間がなければ、事前に教員が用意したものを提示する。) - ワークシート01『税』について考えてみよう」にある参考資料のところには、使用した資料名、出版社、出版年を記録する(参考文献の書き方を指導できる。)
	5 考えてみよう・比べてみよう 2つの話を聞く。 「税金がある場合の暮らし」・「税金がない場合の暮らし」 2つの暮らしを比べたときの発見、疑問などをワークシートに記入する(ワークシート『税』について考えてみよう01)5(1))。 - 隣の席の生徒と意見交換をする。 - 自分の意見や、印象に残った仲間の意見を発表する。 - ワークシート『税』について考えてみよう01)5(2)の記入をする。 - 仲間の意見を聞いて、考えを深め、新たな疑問をもったことをワークシート01『税』について考えてみよう」の「振り返り」欄に記入する	- 話は、オリジナル(2枚の絵を作成して、違いを見つけてもらうのもよい。) ※時間がなければ、省略して別時間に実施するのも可) - 国税庁HP「税の学習コーナー」を参考にする。 - 税金がある場合とない場合に、人々の生活に違いが出ることを説明する(ワークシート『税』について考えてみよう01)5への記入内容を板書やプロジェクターで示す。)
	6 予想しよう どんなものから「税」という字を見つけることができるか予想する。 - スーパーなどのお店で入手したもの 「商品」、「レシート」 - 自分の家にあるもの - 図書館や役所などでみつけた資料 など 予想したものをワークシートに記入する。	- 生徒の発言を板書やプロジェクターで示す。 - 生徒からの意見が出ない場合には、教員側から税を意識するタイミングなどについて、ヒントを出す(買い物に行くと…、商品に書いてあるか。)

	主な発問／学習活動・学習内容、児童の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
展開	7 探してこよう(次回以降の取り組みに繋げる)＝ 課題の提示 6で予想したものの中から実際に家で「税」という字を探してくる。見つけたものについて、ワークシートにまとめる。 ワークシートには、感想も書くこと。 《課題に取り組むにあたっての想定される質問の回答》 例 ・保護者の方に協力してもらってももちろんよい。 ・海外のレシートや商品などから見つけてもよい。 ・お店などで見つけた場合に、お店の方に質問してよい。 (感謝の気持ちを必ず述べる、お仕事の邪魔をしない。) ・見つけたものをワークシートに貼ってよい。貼ることができないものは、写真に撮って貼ったり、自分で絵を描いてよい。 ・現物を学校に持参したい場合には、保護者の方の許可と担当教員の許可を得ること。	・ワークシート『『税』について考えてみよう 02』を配付する。 ・宿題とするので、生徒からの質問を受け付け、楽しく課題に取り組めるようにアドバイスする。 ・授業内容を家に持ち帰り、家族で話題にする。自分自身にとって、より身近な話題として認識したり、アンテナを広げることで、新たな発見や疑問をもつことに繋げる。 ・税金がかからないものをみつけてきてもよい。
まとめ	8 ワークシートに、今回の授業の取り組みから「分かったこと、発見したこと、疑問に思ったこと、取り組み全体の感想」などを記入する。 9 ワークシートを自宅に持ち帰り、家族で話題にすることを確認する。次回までの課題について内容と締切日を確認する。	

- 「税」について考えてみよう 01 -

1. お話をきいて考えよう：あなたは、A君が買い物できずに帰ってきたのは、なぜだと思いますか？

あなたが予想したことと、クラスの仲間の予想を記録しておきましょう。

--

2. 今日の取り組みについて：説明

3. 知っているかな？：「税」という言葉をきいて、知っていることやイメージしていることをかきましょう。

(1) あなたが知っていることやイメージしていることを書き出しましょう。(いくつでも OK)

(2) クラスの仲間と情報を共有しましょう。

自分	クラスの仲間

4. 調べてみよう

「税」という漢字の意味やなりたちを調べよう。

税	
---	--

参考資料：『

』出版社名

5. 考えてみよう・比べてみよう：2つの話を聞いて

(1) 2つの話をくらべましょう。(例をヒントにして、比べる点を自分で書き出しましょう。)

(2) 「お話その1」と「お話その2」のちがいは・・・

【_____】

お話その1	比べる点	お話その2
呼んだ人が、お金をはらわなければなら ない。	例：救急車 ^{きゅうきゅうしや} を 呼ぶ	呼んだ人は、お金をはらわなくてよい。

ということ。

6. 予想しよう：「税」という字を探そう！

あなたは、どんなものから「税」という字をみつけられると思いますか？

--

→ 次のワークシート 7.^{さが}探してこよう につながります。

ふ かえ
振り返り：今回の取り組みから・・・

あなたが、「知ったこと」「分かったこと」「^{はっけん}発見したこと」などを書きましょう。

あなたが、^{ぎもん}「疑問やふしぎに思ったこと」「もっと知りたいと思ったこと」などを書きましょう。

取り組んだ感想

- 「税」について考えてみよう 02 -

7. 探してこよう： 「税」という字をさがして、このワークシートに自由にまとめましょう。

- 取り組みのヒント (1) 「ワークシート『税』について考えてみよう 01」 6で予想したものから「税」という字は見つかったかな？
(2) 予想しなかったものからも見つけることができたかな？
(3) 家族の方と一緒に見つけたものはあるかな？

あなたが、「知ったこと」「分かったこと」「発見したこと」

あなたが、「疑問やふしぎに思ったこと」「もっと知りたいと思ったこと」

取り組んだ感想

【中学校】事例1「私たちの生活と税の役割」

ポイント➤ 外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年／社会科公民的分野（B 私たちと経済（2）国民の生活と政府の役割（ア（イ）、イ（イ）））

○単元の目標

- ・税の使いみちについて、項目やカテゴリーなどに整理してまとめる等、相互関係を整理してまとめる活動を通して、財政及び租税の意義と役割、国民の納税の義務について理解する。
- ・公正・持続可能性などに着目して、政府の役割や財政の在り方について考察・構想し、表現する。
- ・社会の一員（税の負担者）として、税の使いみちなど国・地方公共団体の経済活動（財政）に関心をもち、シミュレーションを通して、それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考えようとする。

○指導計画（5時間・各1時間）

【単元を貫く問い】持続可能な税の在り方について、私たちは、どのように考えたらよいだろうか。

第1時 私たちの生活と税の役割＜本時＞

第2時 税の仕組みや種類と私たち＜事例2＞

第3時 財政の働き、社会保障と国民の福祉

第4・5時 財政の現状と課題＜事例3＞



1 本時の目標

- ・税の役割、納税の義務を果たすことの大切さを説明できる。
- ・税の使いみちに関心をもち、自分との関わりについて、自分の考えを表現できる。
- ・異なる意見の存在を前提に、議論に積極的に参加し、自分の考えを述べるができる。

2 本時の展開（1／5時間）

租税の種類・役割・課題

税の使いみち

国民主権

	主な発問／学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点
導入	1 テネシー州サウスフルトン市の消防の仕組みから考えよう。 (1) テネシー州サウスフルトン市の消防の仕組みを知ろう。 ・サウスフルトン市で起こった火事で、消防がBさんの家にだけ消火活動を行った理由について予想し、ワークシート「私たちの生活と税の役割」の課題1へ記入する。 ・サウスフルトン市の消防の仕組みの説明を聞き、市の消防サービスを受けるには毎年75ドルの費用を支払う必要があること、市長の「消防活動は市が提供するサービスでサービスを受けるか受けないかは住民の自由である」という考え方を知る。 (2) 日本とサウスフルトン市との違いを考えよう。 ・日本では、消防活動の費用は無料である。 ・日本では、消防活動の費用は税で賄われており、消防活動は納税の有無にかかわらず行われる。 → 国民の生命を守る消防などの公共サービスは国民みんなに広く提供されており、その費用は税という形で社会の構成員である国民が広く分かち合って分担していること、憲法には納税の義務があることを理解する。 2 単元を貫く問いの設定と本時の学習課題の把握 【単元を貫く問い】 持続可能な税の在り方について、私たちは、どのように考えたらよいだろうか。	・導入なので自由な発言を引き出し、雰囲気を盛り上げる。 ・生徒の意見を整理し、公共サービスの負担の在り方や納税の義務などに関わる問題であること、日本は受益＝負担ではないこと、生徒も社会の一員として消費税を負担していることを示す。 ・「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に照らしたときに、公共サービスと税が果たす役割が重要であることを踏まえ、単元を貫く問いを設定する。

展開	【本時の学習課題】 身近な生活と税との関わりを通して、租税の意義と公共サービスの在り方について考えよう。 3 身近な生活と税との関わりを考えよう。 - 生徒の一日の生活の例を通して、自分たちの生活と税の関わりに関心、税は自分たちの暮らしを支え、生活に欠かせないものであることを理解する。 (起床) 洗面や調理に使う水・上下水道の整備⇒(登校) 学校に通うための道路や信号⇒(授業) 学校など教育施設の建設、机・椅子・教科書⇒(部活動) 陸上競技場や野球場などの施設作り⇒(だんらん・夕食) 安全な食品をつくる農業・漁業の支援⇒(就寝) 夜の安心、日々の安全を守る警察や消防 4 租税の意義について考えよう。 - もし、国民が税金を納めなかったら(納税の義務を果たさなかったら)、どのようなことが起こるか考える。 「街・地域」では、どのような公共施設や公共サービスがあるのかについても考える。 - ワークシート「私たちの生活と税の役割」の課題2に記入後、意見交換をし、納税の義務を果たすことの大切さを理解する。 5 公共サービスの在り方について考えよう。 (1) 救急車の出動回数の増加に対して有料化すべきとの意見があることについて考え、ワークシート「私たちの生活と税の役割」の課題3に記入し、賛成か反対か理由も合わせて意見交換する。 「誰か不当に不利益を被ることにならないか」、「逆の立場でも受け入れられるか」など、公正であるかを考える。 - 意見の異なる他者に対して粘り強く自分の意見を述べ、追加調査など、自らの学習の調整を行う。 - 政府がどのような公共サービスを提供するのかは、最終的に住民や国民の意思(選択)により決定されることを理解する。 (2) 税の使いみちと私たちの関わりについて考えよう。 ① 税の使いみちは誰が決めているのだろうか？ ② 過去の選挙の争点を調べ、税との関わりを考えよう。 →選挙の争点の多くは、税の使いみち(どのような政策を行うか)や税の集め方(その財源をどのように確保するか)に関わる問題であることに気付く。 - 税の使いみちや集め方は、国民が選挙により選んだ代表者が国会で決めていることを理解する。 ③ 税の使いみちと私たちとの関係についてまとめよう。 - 主権者である国民が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出(選挙)を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識をもつことの大切さを理解する。 - 自らの代表が国の支出の在り方を決めることと自らが国を支える税を負担しなければならないことは、表裏一体であることを理解する。	- 副教材やイラストなどを活用する。 ☆国税庁HP「税の学習コーナー」(発展編)を活用し、国民一人当たりの警察・消防費(約42,560円・令和4年度)など具体的な金額を示めす。 - 学校や警察がどうなるか、具体例を提示して思考の足場を組ませる。 - 税がなければどのような社会になるかを考えさせる。 - 政府は市場の働きに委ねることが難しいサービスを提供していることを示す。 - 税負担が当たり前とされる公共サービスを取り上げ、生徒自身が税の負担者として公共サービスの負担の在り方などについて考え、意見をもつことの大切さを示す。 「税の使いみちは誰が決めているのだろうか？」という問いに対し、自由に意見を出すよう促す。 - 総務省・文部科学省作成副教材「私たちが拓く日本の未来」活用のための指導資料(指導上の政治的中立の確保等に関する留意点)の記載に留意する。 ☆新聞記事 - 選挙に関する新聞記事を活用し、地方創生、教育・子育て、福祉、復興、増税・減税などのヒントを出す。
	6 まとめ 公共サービスの費用を賄う税の意義や役割と私たちの関係について、本時の学習を基に考えをまとめる。	

3 評価規準

【知識・技能】

税の役割、納税の義務を果たすことの大切さを理解している。

【思考・判断・表現】

公共サービスの負担の在り方について「公正」に着目して考えることができている。

【主体的に学習に取り組む態度】

異なる意見の存在を認め、必要に応じて自分の学習を調整するなど、粘り強く学習に取り組んでいる。

学習日：令和 年 月 日

「私たちの生活と税の役割」

() 年 () 組 () 番 名前 ()

2010 年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。

A さんの家が火事になりました。A さんは急いで消防署に電話をしました。

ところが、火事が起きているにもかかわらず、消防隊は A さんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないまま、A さんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣の B さんの家へと、火は燃え広がっていきました。

隣の B さんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。

現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移った B さんの家だけでした。初めに火が出た A さんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。

結局、A さんの家は全焼しました。

(課題 1) 消防隊が A さんの家には何もしないで、B さんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。

予想

正解は・・・

(課題 2) もし、税金を納めなかったら、どのようなことが起こるでしょうか。

学校では・・・

警察では・・・

街・地域では・・・

(課題 3) 「救急車の出動回数の増加に対して有料化すべき。」との意見について考えよう。

【中学校】事例2「税の仕組みや種類と私たち」

ポイント➤ 税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年／社会科公民的分野（B 私たちと経済(2)国民の生活と政府の役割（ア（イ）、イ（イ）））

○単元の目標

- ・税の使いみちについて、項目やカテゴリーなどに整理してまとめる等、相互関係を整理してまとめる活動を通して、財政及び租税の意義と役割、国民の納税の義務について理解する。
- ・公正・持続可能性などに着目して、政府の役割や財政の在り方について考察・構想し、表現する。
- ・社会の一員（税の負担者）として、税の使いみちなど国・地方公共団体の経済活動（財政）に関心を持ち、シミュレーションを通して、それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考えようとする。

○指導計画（5時間・各1時間）

【単元を貫く問い】持続可能な税の在り方について、私たちは、どのように考えたらよいだろうか。

第1時 私たちの生活と税の役割＜事例1＞

第2時 税の仕組みや種類と私たち＜本時＞

第3時 財政の働き、社会保障と国民の福祉

第4・5時 財政の現状と課題＜事例3＞

1 本時の目標

- ・税の種類や基本的な仕組みと、主権者である私たちが税に関心をもつことの大切さを説明できる。
- ・税の納め方や公平な税の考え方に関心を持ち、自分の考えを表現できる。

2 本時の展開（2／5時間）

租税の意義・役割・課題

税の使いみち

税の種類

国民主権

	主な発問／学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	1 【前時の復習】 ・税は、公共サービスの費用を賄うものであり、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための費用は、みんなが広く公平に分かち合うことが必要である。このため、税は「社会の会費のようなもの」である。 2 本時の学習課題の把握 税の種類や基本的な仕組みについて知り、税の集め方について考えよう。	・「公平」、「社会の会費のようなもの」などのキーワードは板書やプロジェクターで示し、認識の共有化を図る。 ・前時の学習内容を想起させ、単元を貫く問い（持続可能な税の在り方について、私たちは、どのように考えたらよいだろうか。）のために、本時は税の種類や基本的な仕組みについて学習することを伝える。
展開	3 税の種類や基本的な仕組みについて知ろう。 (1) 会社員の一日の生活の例から、どのような税が関わっているのか、どのような税の種類があるのかを知る。 【家】住民税(住むこと)、固定資産税→【会社】法人税、所得税(給料)→【外出】自動車税、ガソリン税(揮発油税)、消費税(買い物)、相続税(葬儀場)→【帰宅】酒税、たばこ税等 (2) これらの税が、どこに納められているのかを知ろう。 (3) これらの税が、どのように納められているのかを知ろう。 【所得税】 →会社員の所得税は、会社が毎月給料から差し引き、年末に1年間の税額の過不足を精算する（年末調整）。 →事業者などの所得税は、1年間の所得や税額を自分で計算し、確定申告の時期に申告・納税する。	☆イラストなど ・身近な生活と税が密接に関わっていることを示す。 ・生徒も消費税を負担している税の負担者であることを示す。 ・国税と地方税があることを知らせる。 ・会社員の場合も、副業等の収入については確定申告が必要であることに気づかせ、自分が不利益を被らないためにも、税についての知識を持ち、正しく納税することが必要であることを示す。

展 開	【消費税】 →生徒は、物を買う都度消費税を支払っているが、税務署への申告・納税は、お店が確定申告の時期などに行っている。 ・所得税など国税は、自己の所得等を最も正確に把握している国民が自ら税額を適正に計算し申告と納付を行う申告納税制度（自発的に納税義務を履行する民主的な税制度）であることを理解する。 4 「公平な税」の考え方について知ろう。 ・税の公平とは、税を負担能力に応じて分かち合うという意味であり、公平には2つの大きな考え方があることを理解する。 → 等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をするという考え方（消費税など） → 負担能力の大きい人はより大きな負担をするという考え方 （所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率）。）	・e-Tax など ICT を使って確定申告や納税ができることを示す。  ・消費税のように負担者と納税者が異なる税は間接税、所得税のように負担者と納税者が一致する税は直接税に区分されることを理解する ・「公共サービスの費用は、広く公平に分かち合う必要がある」と学習したことを再確認する。 ・公共サービスの財源を賄えるよう、また、負担が公平になるよう多くの税の種類が組み合わせられていることを示す。
ま と め	5 本時のまとめとして、「税の種類や基本的な仕組み、税の集め方について考えたこと」を自分の言葉で表現する。	・生徒の言葉でまとめるように伝える。

3 評価規準

【知識・理解】

税の種類や基本的な仕組みと、主権者である私たちが税に関心をもつことの大切さを理解している。

【思考・判断・表現】

税の納め方や公平な税の考え方に関心を持ち、自分の考えを表現している。

【中学校】事例3「財政の現状と課題」

ポイント➤ 税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年／社会科公民的分野（B 私たちと経済(2)国民の生活と政府の役割（ア（イ）、イ（イ）））

○単元の目標

- ・税の使いみちについて、項目やカテゴリーなどに整理してまとめる等、相互関係を整理してまとめる活動を通して、財政及び租税の意義と役割、国民の納税の義務について理解する。
- ・公正・持続可能性などに着目して、政府の役割や財政の在り方について考察・構想し、表現する。
- ・社会の一員（税の負担者）として、税の使いみちなど国・地方公共団体の経済活動（財政）に関心をもち、シミュレーションを通して、それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考えようとする。

○指導計画（2時間・各1時間）

【単元を貫く問い】持続可能な税の在り方について、私たちは、どのように考えたらよいだろうか。

第1時 私たちの生活と税の役割＜事例1＞

第2時 税の仕組みや種類と私たち＜事例2＞

第3時 財政の働き、社会保障と国民の福祉

第4・5時 財政の現状と課題＜本時＞

1 本時の目標

- ・財政及び租税の意義と役割、国民の納税の義務についての理解を基に、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念と照らし合わせながら、その在り方について考察・構想し、表現することができる。
- ・社会の一員（税の負担者）として、国・地方公共団体の経済活動と財政に関心をもち、シミュレーションを通して、それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考えようとすることができる。

2 本時①の展開（4／5時間）

租税の意義・役割・課題

税の使いみち

公平な税

財政の目的

財政の現状と課題

	主な発問／学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点
導入	1 【前時の復習】 ・国民の生活と福祉の向上を図る上で（財政は重要な役割を果たす上で）、財政は重要な役割を果たしている。 2 本時の学習課題の把握 シミュレーションを通して、公平な社会の在り方について考えよう。	・前時の学習内容を想起させ、単元を貫く問い（持続可能な税の在り方について、私たちは、どのように考えたらよいだろうか。）に向けて、本時はシミュレーションを通して考えることを伝える。
展開	3 シミュレーションを通して考えよう。 (1) シミュレーションの準備をしよう。 ・クラス全体をワークシート（前提）①のA～G 7グループに分け、各グループの立場を決める。 ・ワークシート（前提）の各人の立場、収入と願い、全体で必要な予算総額を理解する（①～④）。 (2) シミュレーションをしよう。 ・（前提）④の予算総額を念頭に置き、各人が収入からどのくらいの税金を納めることができるかを考え、その金額と理由をワークシート（課題1）の②、③に記入する。 ・グループ内で、各人が決めた納める税金の額を発表する。 ※180万円から20万円を納める生徒や2,000万円から1円も納めない生徒もいる。	・人々には様々な願いがあることを知る。 ・自身の税負担を具体的に考えることにより、納税の実感を得る。 ・言葉で伝えることで自身の価値判断の根拠を自覚する。

	- グループ内で、各人が発表した税金の額及び理由について話し合い、納税額についての合意を形成する。 - 各グループが話し合った結果を発表し、全体で意見交換をする。 ※それぞれの税金の額を比べながら、「私より収入が多いのに税金が少ない。」「収入が多いのだから、もう少し納めてほしい。」など、生徒たちは様々な反応を示す。 (3) 税率を計算しよう。 - ワークシート（課題 1）に、各グループで考えた各人が納める税金（②）を収入（①）で割り、それぞれの税率を計算し、④に記入する。 - グループ内で、各人が計算した④の税率を比較する。 - 税の公平の考え方には、水平的公平と垂直的公平があることを知る。 4 現在の日本の税率について知ろう。 - ワークシート（参考：所得税の税率）と（課題 1）の④の税率とを比較する。 - 各人の収入には、（参考：所得税の税率）のどの税率が適用されるのかを確認し、（課題 2）①の各人の税率に記入する。 「税額の計算例」を参考に、納める税金を計算し、（課題 2）②の納める税金に記入する。 （課題 1）②の納める税金と（課題 2）②の納める税金を比較する。	- 他者の意見を聞くことで、異なる視点から物事を見つめ直し、自身の価値判断の根拠についても考える。 - 税の公平には、水平的公平と垂直的公平の考え方があることを示す。 - 水平的公平→等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をする（消費税や個人住民税は、税率は一定だが、課税対象額が多くなるほど税額が多くなる仕組み（比例税率）。令和 6 年 4 月現在）。 - 垂直的公平→負担能力の大きい人はより大きな負担をする（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））。
まとめ	5 公平な社会とは何かを考えよう。 2つの公平の考え方や所得税の税率を知り、改めて各人の税負担や公平な社会の在り方について話し合う。 ※税率は同じにした方が平等だと思う。その場合でも収入が多ければ納める税金が多くなるのに、税率まで高くするのはおかしい。 ※収入が多い人は損だとも思えないが、「助け合いの心」だと思う。 ※全員が同じ税金を納めるのは金額だけ見れば平等かもしれないけど、収入に応じた負担は平等ではないから、累進税率はよいと思う。 ※累進税率は賛成だけど、税率のバランスが悪いと思う。もっと高所得者の税率を高くして、低所得者の税率を下げた方がよい。 ※垂直的公平だと貧富の差がなくなるけど、やり過ぎると真面目に働く人がいなくなるので難しいと思った。 ※どちらもそれぞれに公平だと思う。それぞれに必要とされる場面が違うので、その場に応じた公平の適用が必要だと思う。 ※どちらの公平が正しいとか、どちらにすべきというものではないと思う。人によって考え方は違うので、公平というのは難しいなと思った。 ※両方の公平を上手く組み合わせてバランスを取ることが大事だと思う。	- 社会全体の利益と個の在り方について総合的に考える。 「公平な社会とは何か。」について自分なりの見解をもつ。

3 本時②の学習（5／5時間）

	主な発問／学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	1 前時の復習をする。	

展開	2 「みんなで考えて、税金を納めてくれましたが、人々の願いを全て実現するには税収が足りません。さて、どうしたらよいのでしょうか。」 3 財政に関する資料を調べる。 日本の財政の現状（深刻な財政赤字の状況や諸外国との税負担の違いなど）を知り、今後の日本の在り方について考え、意見を発表する。 ※必要なお金と集まるお金にこれほど差があるとは思わなかった。 ※税収が全体の半分くらいで、公債に頼っているのはよくないと思った。 ※少子高齢化に伴い、問題が生じていることは知っていたが、これほど影響が出ているとは知らなかった。 ※諸外国に比べ税負担は少ないので、もう少し増税してもいいのではないかと思う。	- 最初は財政の現状を知らせず、グループの話し合いの中で独自の発想を引き出す。 「誰一人取り残さない」というSDGsの理念と照らし合わせながら、解決方法について考える。 ☆財務省HP - 他者の意見を聞き、歳入と歳出のアンバランスや諸外国の現状等を知った上で、今後の日本の在り方について改めて考える。
まとめ	4 単元を貫く問い（持続可能な税の在り方について、私たちは、どのように考えたらよいだろうか。）について、自分の考えを書く。 ※現役世代にとっては負担＜福祉はうれしいけれど、公債によって負担を先送りするくらいなら国のサービスを減らせばいいと思う。 ※国の現状がよく分かって、国民の一人として真剣に考えていくべきだと思った。 ※完璧な社会を作り上げることは無理でも、公平な社会を作り上げていかなければならないと思った。 ※税によるサービスが充実しているのはうれしいし、「誰一人取り残さない」社会をつくるために公共サービスは重要だけれど、借金で負担を先延ばしにしていることを知って少し嫌だった。将来の人に負担を押し付けないためには増税も必要だと思う。 ※今日の授業を通して、私たちも国民の一人として考え、意見を言うことができるようになってよかった。	人々の願いは様々であり、主権者である国民一人一人が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識をもつことの大切さを理解する。

4 評価規準

【思考・判断・表現】

財政及び租税の意義と役割、国民の納税の義務についての理解を基に、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念と照らし合わせながら、その在り方について考察・構想し、表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

社会の一員（税の負担者）として、国・地方公共団体の経済活動と財政に関心をもち、シミュレーションを通して、それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考えようとしている。

5 まとめ・振り返り(実践を終えて)

- みんなとても熱心にグループ討議を重ね、積極的に発言が出された。中でも、「一部の人が裕福で、一部の人が見捨てられるような国は嫌だ。」「たくさん税金を払っても、それが社会のためになっているのなら頑張ろうと思う。」など、思いやりの心や相互扶助の精神が強く感じられたことが特に印象的であった。
- 他者の立場や社会全体の利益に配慮し、「みんなの生活がよくなるように」という視点で物事を捉える姿勢には感心するものがあつた。
- 生徒間の議論を通じ、様々な価値観に触れることで、自分自身の考えについて見直すきっかけにもなったようにも感じられた。
- これからの社会を担う生徒たちに、今後も税を通して社会の在り方について考えるきっかけを与えることができればと思う。

○教材・資料（ワークシート）

（前提）

① 各人の立場	②各人の収入 (所得)	③各人の願い（例）	④③の政策に 必要な予算額
高齢者のAさん	250 万円	医療費負担の軽減、介護支援等 ＝高齢社会における社会保障	※6,800 万円
育児中のBさん	500 万円	子育て支援（児童手当、育児環境 整備）など＝少子化対策	1,600 万円
フリーターのCさん	180 万円	雇用創出、企業への補助金支給 など＝生活保障と経済効果	3,800 万円
企業経営者のDさん	2,000 万円	景気回復など＝景気の安定化	7,200 万円
災害に遭われたEさん	800 万円	住宅確保、インフラの復旧など ＝災害時の社会保障	5,300 万円
持病をもっているFさん	350 万円	医療費負担の軽減など	（※に含まれる）
介護をしているGさん	1,000 万円	介護休暇制度の充実など	（※に含まれる）
合計	5,080 万円	—	2 億 4,700 万円

（課題 1）

各人の立場	①各人の収入 (所得)	②納める税金	③理由	④税率 (②/①)
Aさん	250 万円	万円		%
Bさん	500 万円	万円		%
Cさん	180 万円	万円		%
Dさん	2,000 万円	万円		%
Eさん	800 万円	万円		%
Fさん	350 万円	万円		%
Gさん	1,000 万円	万円		%
合計	5,080 万円	万円	—	—

（課題 2）※便宜上、収入＝課税所得（収入から
差し引く経費なし）として計算

各人の立場	①各人の税率	②納める税金
Aさん	%	円
Bさん	%	円
Cさん	%	円
Dさん	%	円
Eさん	%	円
Fさん	%	円
Gさん	%	円
合計	—	

（参考：所得税の税率）※令和 6 年分

課税される所得金額	税率
195 万円以下	5%
195 万円超～330 万円以下	10%
330 万円超～695 万円以下	20%
695 万円超～900 万円以下	23%
900 万円超～1,800 万円以下	33%
1,800 万円超～4,000 万円以下	40%
4,000 万円超	45%

税額の計算例：課税される所得金額が 400 万円の場合

- ・ 195 万円×5%＝97,500 円
- ・ (330 万円－195 万円) ×10%＝135,000 円
- ・ (400 万円－330 万円) ×20%＝140,000 円
- ・ 97,500 円＋135,000 円＋140,000 円＝372,500 円

※税額は、課税所得金額ごとに税率を掛けて計算します。

【高等学校】事例1 「よりよい税制を考えてみよう」

ポイント➤ 主体的・対話的な学習を通し、租税の在り方について考えを深めていく授業例

○教科など

- ・公民科「公共」（B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち（ア（ウ）、イ（ア）財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化））

○単元の目標

- ・財政及び租税の役割に関わる現実社会の事柄や課題を基に、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることについて理解する。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- ・経済と政治などの側面に関連させ、解決が求められる主題に「よりよい税の在り方」を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- ・「よりよい税の在り方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

○指導計画（4時間・各50分）

【単元を貫く問い】よりよい税の在り方について考えよう。

第1時 政府の経済的役割と財政の仕組み

第2時 租税の種類と役割

第3時 よりよい税制を考えてみよう<本時>

第4時 自分の考えた「公平な税」について、合意をつくるためにどうすればよいか考えよう。

1 本時の目標

- ・外国の税制度に関する資料などから必要な情報を適切に読み取っている。
- ・望ましい税制度の実現について、協働して考察したり、構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

2 本時の展開（3／4時間）

税の種類

公平な税

	主な発問・指示/学習活動・学習内容	指導上の留意点、資料等(☆)
導入	○ 知っている税金の名前をあげてみよう。 【想定される回答】 所得税、消費税、法人税、酒税、入湯税など	・「日本には、何種類の税金があるだろう？また、なぜそれだけ多くの税金の種類があるのだろうか？」などの追加発問を行い、社会を構成する様々な人たちから、水平的公平と垂直的公平を満たしつつ税を納めてもらうために、様々な種類の税を組み合わせていることを確認する。
展開	○ 本時の問いを確認しよう。 税の望ましい直間比率について考えよう。 ○本時の問いについて、自らの考えをフォーム作成ツール（Formzu、Microsoft Forms、Google Forms等）に入力し、クラス全体の考えを共有しよう。	・まずは自分たちにとって身近な消費税から考えることを伝え、生徒が見通しをもって学習活動に取り組めるように工夫する。 ・生徒の意識変容を見取るために、フォーム作成ツールを活用するなど工夫をする。

	主な発問・指示/学習活動・学習内容	指導上の留意点、資料等(☆)								
展開	○ワーク1 今後の消費税率（「消費税の税率について考えよう」）について、自分の考えに最も近いものを選択し、消費税増税に関するメリット・デメリットについて議論しよう。 【今後の消費税の税率に関する選択肢】 <table><tr><td>1 現状のままでよい、</td><td>2 今すぐ上げる、</td></tr><tr><td>3 3年後に上げる、</td><td>4 今すぐ下げる、</td></tr><tr><td>5 3年後に下げる、</td><td>6 その他</td></tr><tr><td colspan="2">()</td></tr></table>	1 現状のままでよい、	2 今すぐ上げる、	3 3年後に上げる、	4 今すぐ下げる、	5 3年後に下げる、	6 その他	()		・生徒全員が消費者であり、消費税の納税者であることから、消費税増税が「自分にとって」どのような意味をもつのか、また、「社会全体にとって」はどうかを考え、「社会の会費」である税の負担はどのようなものであることが望ましいのかを考えるよう促す。 ・消費税は逆進性が強く、消費増税は低所得者への負担が高くなる課題があることに気付くよう促す。 ・諸外国の消費税率を提示し、逆進性が強いという課題にもかかわらず、消費税率が高い国もあるということに気付くヒントを与える。
1 現状のままでよい、	2 今すぐ上げる、									
3 3年後に上げる、	4 今すぐ下げる、									
5 3年後に下げる、	6 その他									
()										
	○ワーク2「税の望ましい直間比率について考えよう」というテーマで、グループ別にディスカッションを行い、発表しよう。 ・グループで、税の望ましい直間比率について考え、自分たちの考えを論拠をもって説明しよう。 ・他のグループの発表を聞き、自分たちの考えをブラッシュアップさせよう。	・生徒の中にはアルバイト等で得た収入から所得税を納めている者もいることから、様々な納税経験を共有し、対話によって自分の考えを広げたり深めたりするよう促す。 ・諸外国の直間比率を示したり、資産そのものへの課税を強化すべきという説（ピケティ）を紹介したりしながら、事実を基に考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現するよう促す。 ・財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化については関連させて取り扱うことが求められていることから（「高等学校学習指導要領」p.83 参照）、諸外国の相対的貧困率等を提示し、所得の再分配機能の役割に再度着目するよう促す。 ・よりよい税制を考えることがよりよい社会を考えることにつながるという問いの意義を伝えるとともに、グループでは下記に留意して話し合うように伝える。 ① 租税の原則（公平、中立、簡素）の3つの原則をできるだけ満たすこと。 ② 「公平」については、垂直的公平、水平的公平、応能負担、応益負担の考え方に基づくこと。 ③ 公正（不当に不利益を被っている人はいないか）、公共空間における基本的原理（世代間の協力・協働や公助などによる社会的基盤の強化などにつながる）、財政の持続可能性などに留意すること。 ・各グループからの発表の際には、間接税（消費税）、直接税（所得税、法人税、固定資産税）のメリットと問題点について教員の方で再度整理する。 ・それぞれの税には、問題があることを踏まえ、直間比率に関する自分たちの考えに、留保条件をつけるように導く。 ・税の専門家、各地域の税に関係する民間団体等及び関係機関などとの連携・協働を図り、授業の充実を図る。								
まとめ	○「税の望ましい直間比率」について、フォーム作成ツールに意思表示をしよう。また、なぜそのように考えるのかについて、自らの考えをワークシートに記入しよう。 ○次時の予告を聞き、学びの見通しをもとう。 合意形成や社会参画を視野に、より多くの人に自分たちの考えに納得してもらえる方法を考えよう。	・フォーム作成ツールでの集約結果を共有する。 ・自らの考えを記入する際は、ワーク2の活動をする際に示した観点に従い、また、他のグループを聞いたり、そのあとに各グループで話し合った際に考えが変わった場合にはその理由も書くように伝える。 ・痛税感に関する国際比較調査の結果を示し、日本は租税負担率の割に痛税感が高いことに着目し、「より多くの人に自分たちの考えに納得してもらえる方法」を考えるという次時の課題を示す。								

3 評価規準

【知識・技能】

- ・財政及び租税の役割に関わる現実社会の事柄や課題を基に、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることについて理解している。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

幸福、正義、公正などに着目して、主として経済に関わる事項について、経済と政治などの側面を関連させ、解決が求められる主題に「よりよい税の在り方」を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

「よりよい税の在り方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

問い「望ましい直間比率について考えよう」。あなたの考えを書こう。

授業開始時	
授業終了後	

(ワーク 1) 今後の消費税の税率について、次の 1～6 のうち、自分の考えに最も近いものを選び、その理由を書きましょう。

消費税率	1 現状のままでよい、 2 今すぐ上げる、 3 3年後に上げる、 4 今すぐ下げる、 5 3年後に下げる、 6 その他 ()
理由	

(ワーク 2) グループでディスカッションをしよう

テーマ 「望ましい税の直間比率とは」

(1) グループで話し合い、必要なことをメモしましょう。

--

(2) 他の班の発表について、必要なことをメモしましょう。

--

【高等学校】事例2「累進課税制度について考えてみよう」

ポイント➤ 主体的、対話的で深い学びとなる、公平な税制について主体的に考察する授業例

○教科など

- ・公民科「公共」（B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち（ア（ウ）、イ（ア）財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化））

○単元の目標

- ・財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- ・主題に「公平な税制」を設定し、経済と政治などの側面に関連させ、合意形成や社会参画を視野に入れながら、主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- ・「公平な税制」について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

○指導計画（3時間・各1時間）

【単元を貫く問い】よりよい社会の実現を視野に、「公平な税制」について考えよう。

第1時 政府の経済的役割と財政の仕組み

第2時 租税の役割と仕組み

第3時 **累進課税制度とはく本時**

1 本時の目標

- ・「累進課税制度について考えてみよう」を通して、累進課税制度の本質について理解する。
- ・主体的で対話的な学習を通して、公平な税制について考察する。

2 本時の学習（3／3時間）

租税の意義・役割・課題

税の使いみち

公平な税

	主な発問・指示/学習活動・学習内容	指導上の留意点、資料等
導入	・新たに橋を架ける費用について（ワークシートのワーク1）考える。	・クラスを6つに分け、最初は税金以外の方法から考えるよう伝える。
	生徒からは、税金、通行料、寄附、借金などの意見が出されるが、毎日の通行料は煩わしい、通行料を集めるには人を雇う必要がある、寄附は集まらなかったら困る、寄附を割り当てるなら税金と変わらない、借金には利子が付いて将来税金で返さなければならない、それなら税金がいいなどの意見が予想される。	

	主な発問・指示/学習活動・学習内容	指導上の留意点、資料等
展開	・「公平に集めたい」との条件で、各班の収入が同額の場合のワーク 2 を考える。 この場合、1,800 万円の税金を 6 で均等割りして各班 300 万円を納税する（定額）などの解答が予想される。 ・収入が異なる場合のワーク 3 を行い、理由をワークシートに書く。 ・累進課税制度（税の所得再分配機能）について紹介し（ワーク 4）、所得が高い人がなぜ多く税負担をするのかについてワーク 3 から確認をする。 ・ワーク 5 を行い、再度、税金の集め方について考える（ワーク 5 は、ワーク 3 と収入が同じでありながら、生活をするのに最低 200 万円は必要であるという新たな条件が出ている）	・ワーク 3、4 に時間を多く費やしたいため、ワーク 2 は教員主導で話を進めることも視野に入れる。 ・ワーク 2 の考えを流用すれば各班 300 万円の納税が生ずるが、E 班は税金を納めれば残りが 0 円に、F 班に至っては税金の方が収入より高くなってしまい納めることができなくなる。そこで不足している税金をどこで補うのか、また、補う場合の根拠や基準はどこにあるのか、などについて議論する。 ・更に学習が深まるよう、現実社会と照らし合わせて説明する（例：年収 200 万円以下の会社員が 1,000 万人以上いることや、生活保護の受給者が 200 万人以上いることなど）。 ・皆が納得できる集め方にするためにはどうすればよいか、合意形成の在り方についても考えるよう導く。
まとめ	・累進課税制度と単元を貫く問いである「よりよい社会の実現を視野に、『公平な税制』について考えよう。」の関係について、再度考えるとともに、授業の振り返りを行う。	・現実社会では、できるだけ公平になるよう複数の税の種類が組み合わせられていること、公平な税制を考えるには、自分だけでなく他人も幸せになれる社会、負担と受益にみんなが納得できるような公平さが求められることなどの説明を加える。

3 評価規準

【知識・技能】

- ・財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

- ・主題に「公平な税制」を設定し、経済と政治などの側面を関連させ、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・「公平な税制」について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(ワーク 1) このクラスを〇〇市と名付けます。皆さんはその市の市民です。小さな市で市民は 6 人。市の真ん中を市の管理する川が流れています。渡し船しかなく、学校や職場へ通うにしても大変不便でした。さて、市民全員の要望もあり、今度、市では新たに橋を架けることになりました。橋はどの市民にも等しく生活に使われる予定です。その橋を造るのには 1,800 万円がかかることが分かりました。さて、どのようにこのお金を集めたらいいでしょうか。

--

(ワーク 2) 全ての市民の収入は 1,000 万円です。なるべく公平に集めたいと思います。いくらずつ集めればよいでしょうか。

	収入 (所得) /年	メモ欄	税金	残り
A (班)	1,000万円		300万円	700万円
B (班)	1,000万円		300万円	700万円
C (班)	1,000万円		300万円	700万円
D (班)	1,000万円		300万円	700万円
E (班)	1,000万円		300万円	700万円
F (班)	1,000万円		300万円	700万円
合計	6,000万円		1,800万円	

例えの数値

(ワーク 3) 市民の収入が異なる場合は、どうでしょうか。なるべく「公平に集めたい」と思います。いくらずつ集めればよいでしょうか。各グループで話し合ってみよう。

	収入 (所得) /年	メモ欄	税金	残り
A (班)	2,500万円		900万円	1,600万円
B (班)	1,500万円		450万円	1,050万円
C (班)	1,000万円	※累進税率による税額の計算例 ・500万円×20%=100万円 ・(1,000万円-500万円)×30% =150万円 ・100万円+150万円=250万円	250万円	750万円
D (班)	500万円		100万円	400万円
E (班)	300万円		60万円	240万円
F (班)	200万円		40万円	160万円
合計	6,000万円		1,800万円	

なぜ、そのように考えたのか、理由を書いてみよう。

(ワーク 4) 日本の所得税では、所得が多い人が多くの税金を負担する累進課税制度というやり方がとられています。これについて、どう思いますか。

--

(ワーク 5) 同じ質問をします。なるべく公平に集めるためには、いくらずつ集めればいいでしょうか。ただし、この〇〇市で健康で文化的に生活していくためには、最低一人当たり年 200 万円が必要となるとします。今度はクラス全員で話し合い、決定をしてください。

	収入（所得）/年	メモ欄	税金	残り（≥200 万円）
A（班）	2,500万円			
B（班）	1,500万円			
C（班）	1,000万円			
D（班）	500万円			
E（班）	300万円			
F（班）	200万円			
合計	6,000万円		1,800万円	

なぜ累進課税制度があるのか、あなたの考えを書こう

【高等学校】事例3「主権者として、納税の意義を考える」

ポイント➤ 税の機能や意義を理解し、納税者としての意識を醸成することに重点を置いた授業例

○教科など

- ・公民科「政治・経済」（A 現代日本における政治・経済の諸課題（1）現代日本の政治・経済（ア（イ）イ（エ））財政の働きと仕組み及び租税などの意義））

○単元の目標

- ・財政の働きと仕組み及び租税などの意義について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。
- ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。
- ・持続可能な財政及び租税の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・現代日本の政治・経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。

○指導計画（4時間・各1時間）

【単元を貫く問い】国民主権を担う私たちは、納税者として、税に対してどのような態度であるべきだろう。

時	主な発問・指示/学習活動・学習内容	指導上の留意点、教材・資料(☆)
1	○納税者として必要な税の手続について学ぶ ・国税庁HP「税の学習コーナー」（実践編、パワーポイントの高校生用教材）やパソコン等で申告書が作成できる「確定申告書等作成コーナー」を活用し、源泉徴収票の見方などを学び、所得税の確定申告書の作成を体験する。  ○税の専門家、各地域の税に関係する民間団体及び関係機関等の外部講師の話を聞く ・税に関することについて質問をしたり、税に関する仕事の実務について話を聞いたりする。	・税の専門家、各地域の税に関係する民間団体及び関係機関等の外部講師や ICT を活用する。 ・確定申告書の作成を体験し、自立して社会生活を営むに当たり、必要な税の知識や実践力を身に付けるきっかけを与える。 ・確定申告は、納税の義務を果たす手続の一つであることに気付くきっかけを与え、自身と社会とのつながりを意識するよう促す。 ・キャリア教育と関連させ、税に関する仕事を知る。
2	○主権者として、納税の意義を考える ＜本時＞	
3	○公平な税制を考える ・グループワークを通して、公平な税制を考える。 ・累進課税制度を理解する。	
4	○財政について考える ・財政制度、財政の仕組みや機能を理解する。 ・歳入と歳出、国債発行額等のグラフを見て、財政の現状と課題を把握する。 ・財政問題の解決方法を考え、意見をワークシートにまとめる。	・財政を捉える上で重要な用語や概念等についてはあらかじめ押さえておく。 ☆国税庁HP「税の学習コーナー（発展編）」や副教材の歳入・歳出の円グラフ、国債発行額のグラフなどを参照。 ・一人一人が財政に関心を持ち、主体的に考え行動することが重要であることに気付くきっかけを与える。

○本時の学習

1 本時の目標

財政の働きと仕組み及び租税などの役割と、納税の義務を果たすことの意義を、主権者である国民の要望（ニーズ）に応える公共財や公共サービスの提供という観点から理解する。

2 本時の展開（2／4時間）

【単元を貫く問い】国民主権を担う私たちは、納税者として、税に対してどのような態度であるべきだろう。

租税の意義・役割・課題

税の使いみち

財政の目的

	主な発問・指示/学習活動・学習内容	指導上の留意点、教材・資料(☆)
導入	1 前時の学習の振り返りと、単元を貫く問いの設定 2 本時の学習課題の把握 なぜ、私たちは税金を納めなくてはならないのだろうか？	・前時の学習を振り返りながら、納税が国民の義務であることに留意させ、単元を貫く問い、本時の学習課題を設定する。
展開	3 市場経済における政府の役割 ・歳出の円グラフを見て、政府（財政支出）に対する主権者である国民の要望（ニーズ）にはどのようなものがあるのかを考える（社会保障（けがや病気等の医療、年金・介護など）、公共事業、教育、防衛、地方公共団体の財政調整などが予想される。）。 ・歳出全体の金額を〇年前と比較し、全体として財政支出が増えていることを知る。 ・歳出のどの項目が、どのくらい増えているのかを調べ、その背景を考える。 4 税の機能 ・政府が役割を果たすためには、何が（どのような働きが）必要であるかを考える。 ・税には「公共サービスの財源を調達する機能」、「所得税や相続税などの累進税率で集めた財源を社会保障などに支出し、所得や資産（富）を再分配する機能」、「減税や増税を行い、景気の安定化を図る機能」、「その他、様々な政策目的を実現する機能」などがあることを理解する。 ・市場経済において政府が役割を果たすためには、「財源の裏付け」が必要であり、税の基本的な機能は財源の調達にあること、税は政府の役割を果たすための財源であることを理解する。 5 公共サービスの特徴と税の意義 ・なぜ公共サービスを市場に委ねることが難しいのかをグループで議論しながら考え、公共財の性質について理解する。 ・公共財の性質を理解した上で、公共サービスを市場のみに委ねた場合はどうなるかを考え、グループで議論する。	☆国税庁HP、副教材等を参照。 ☆内閣府「国民生活に関する世論調査」の政府に対する要望が高いのは、物価対策、景気対策、医療・年金等の社会保障の整備、高齢社会対策、など（令和5年度）。 ・財源を集める、集めた財源を再分配する、景気の安定化を図るなどの働きが必要であることを理解できるよう導く。 ・所得が高いと税率が高くなる累進課税の仕組みは、ビルトイン・スタビライザー機能（景気を自動的に安定化する役割）も果たしていることに気付くよう促す。 ☆諺「絵に描いた餅」を用いて、「財源の裏付け」がなければどうなるか考えるきっかけを与える。 ・安全・安心な社会に欠かせない外交、防衛、警察、消防、司法等は、市場から全く提供されないものであることを理解できるよう説明する。

	主な発問・指示/学習活動・学習内容	指導上の留意点、教材・資料(☆)
まとめ	6 「なぜ、私たちは税金を納めなくてはならないのだろうか？」という問いについて、授業を振り返りながら、レポートにまとめる。	

3 評価規準

【知識・技能】

- ・財政の働きと仕組み及び租税などの意義について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。
- ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

- ・個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、持続可能な財政及び租税の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・現代日本の政治・経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

【大学(教員養成大学)】事例「教育学部における租税教育研究」

ポイント➤ 大学講師、学生、税の専門家が協働して税の授業づくりを行う事例

○実施学年、教科など

- ・教育学部 社会専攻の学生（2年生～4年生）

○目的

- ・大学の教育学部において、大学講師、学生、税の専門家が協働して、「租税教育」をテーマとした社会科教育研究に取り組むことにより、学校教育における中長期的な租税教育の充実を図る（日本税理士会連合会による寄附講座）。

○目標

- 1 教育学部生の意識啓発及び社会科授業実践力の養成

近い将来、租税教育を担う教員となる教育学部生が、税をテーマとして、税の専門家を交えて社会科教育研究に取り組むことにより、租税教育の重要性を認識するとともに、児童・生徒の「社会を見る目を養うこと」を目的とした授業づくりに必要な基礎的知識（税の制度、憲法の権利・義務、民主主義等）を理解する。また、社会科教育実践の可能性を探り、教材研究、授業デザインを柔軟かつ創造的に開発する力を身に付ける。

- 2 租税教育研究の充実

社会科学研究を専門とする大学講師が、税をテーマとした研究を進めることにより、租税教育の社会科教育における位置付けの確立、具体的な指導方法（単元目標、学習内容、学習活動等の構成）の研究の充実を図る。また、学校教育現場において、教育学部生が租税教室の講師を行うことにより、当該研究成果を学校教師に発信する。

○特徴

- ・「税の授業づくり」をテーマに、税の専門家と協働して授業づくりを行う。
- ・前半は、学生の税についての知識や理解を深める学習を行い、後半は、授業の構想・指導案作成・教材づくり・模擬授業と振り返り等を行う。
- ・なお、税の専門家は、講座に参加し、税についての講義や教科研究に必要な資料の提供等、授業づくりのサポートとしての役割を果たす。

○授業計画（前期 15 回）

（1 月）講師 授業計画（シラバス）の策定

（4 月～7 月）

1 回 オリエンテーション

- ・税の授業研究の目標及び学習内容（活動）を確認。租税教育の重要性を理解する。
- ・税の専門家と協働し、早い段階から実習を行う授業が求められている理由を知る。
- ・税の専門家の自己紹介、事前アンケート等。

2 回 近代国家の成立と税の考え方（ホッブス、アダム・スミス、ヘーゲル、ワグナー）

3 回 税の専門家による講義「税の意義・役割や仕組み、税の在り方について考えよう」
「公平」な税制度とは？（世代間の公平、地域間の公平）

4 回 税の意義・役割、社会的機能（炭素税・環境税：政策誘導など）について考えよう。

5 回 「税の授業づくり」①授業の目標設定（税の専門家による講義を含む。）

6～7 回 小学校・中学校授業参観

- （目的）・教師の発問と児童・生徒の思考との関係について考える。・授業構造について考える。
- ・授業中の配慮の必要性について考える。
- ・児童・生徒の実態をつかみ「税の授業づくり」への準備をするなど。

8 回 「税の授業づくり」②授業の構想・指導案作成＜本時＞

9～10 回 「税の授業づくり」③～④教材作成

11 回 模擬授業と振り返り

12～14 回 小学校・中学校での税の授業実施

15 回 まとめ、最終アンケート

○教材・資料

中学校学習指導要領解説・社会編、小学校学習指導要領解説・社会編

○本時の学習

1 本時の目標

税を通して公正な社会の在り方について考えるとともに、小・中学校で実施する「税の授業」が構成できる。

2 指導のポイント

児童・生徒たちが、「学んでみたい」、「面白い」と思える授業構成になるよう、ふだんからニュースに気を配り、「ネタ」を集めておく。本時ではそれらの「ネタ」を持ち寄り、ニュースなどの具体的な社会的事象から、「税の意義」（小学校）、「税の在り方」、「公正な社会の在り方」（中学校）といった学習内容の本質に迫れるような授業構成を考えさせる。

3 本時の展開

- (1) 小学校・中学校での授業参観を通して、児童・生徒の様子、教師の声掛けの必要性など、気付いたことを出し合おう。

(例)・興味のない児童・生徒に対して「知りたい」と思わせること。ニュースネタを使用。
・消極的な児童・生徒をうまく誘導 など

- (2) 「税の授業」までの日程を知る。

- イ 「税の授業」を実施する学校
- ロ 学生をチーム分け
- ハ 「税の授業」までの日程

- (3) 「税の授業」の構想を練る。

- イ (学生) 今まで4回、税について学んできて、一番印象に残ったことは？

(例)・〇〇医療センターを取り上げた公平な税の使いみちについての授業
・環境税の必要性→違う人の意見を聞く

- ロ (学生、指導者) 「税の授業」を通じて、児童・生徒たちに最も伝えたいな、と思うことは？

(例)・税の大切さ(身近な税)→納得感

- ハ (指導者のみ) これまで「税の授業」を行ってきた中で、児童・生徒たちが興味をもつ、深く学ぶことができると感じている、お勧めの教材、学習活動を教えてください。

(例)・税がなかったらどうなるだろう(当たり前が当たり前でなくなる)
→税の使われている所を知る。クイズ、街づくりシール(貼った理由を考えてもらう)。
・消費税をテーマ(身近な話題として) ・県下の公共施設に使われているお金
・一日の生活の中で税が使われていること ・自分たちの身を守るために使われているお金

- (4) 学習指導案をつくる。

(例)・学校には税が使われていること ・税は納めるもの
・税の大切さ→どう使われているか ・税の恩恵 ・自分たちは社会の構成員
本時目標→児童・生徒が、〇〇が分かる 学習活動→3つ又は2つやりたいこと

○学習の評価

- ・出席状況と小レポート及び作成・実施した授業

○自分の「税の授業」を振り返って(指導者)

- ・「有効だった」と思う手立て
→街づくりゲームでグループワークを行い、その結論を発表すること(グループにより結論が異なっており、その中から、またよりよい選択を考えることができ、社会参画の意義について議論を深化できる。)
- ・違うチームの授業を見て、気付いたことや考えたこと
→発表の場面では、「考えたことを発表してね。」と投げかけるが、それでは議論が深まりにくい。漠然と投げるのではなく、「どの項目で」というような着眼点を与えることの必要性を感じた。

参考1：租税教育の体系図(学校段階と授業において取り上げたい要素)

学校段階		小学校(社会)※中学年	小学校(社会)※高学年	中学校(公民的分野)	高等学校(公共)	高等学校(政治・経済)
育成を目指す資質・能力	知識・技能	・人々の生活との関連を踏まえ、自分たちの住んでいる地域(市や県など)の様子等について理解 ・具体的資料(調査活動、地図帳等)を通して、必要な情報を調べまとめる技能	・国土の地理的環境とそこで営まれている産業の様子、情報化に伴う産業や国民生活の変化について理解 ・我が国の政治の考え方や仕組みや働き、関係の深い国の生活やグローバル化する社会における我が国の役割について理解 ・基礎的資料(地球儀や統計等)を通して、情報を適切にまとめる技能	・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解 ・諸資料(新聞、年鑑等)から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能	・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解 ・諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能
	思考力・判断力・表現力等	・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力 ・社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力 ・考えたことや選択・判断したことを表現する力	・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力 ・社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力 ・考えたことや選択・判断したことを説明したり、議論する力	・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力	・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力 ・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力	・現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力 ・構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力
	学びに向かう力・人間性等	・主体的に学習の問題を解決しようとする態度 ・よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度		・主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識 ・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度 ・各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度 ・我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚
項目		キーワード	授業において取り上げたい要素			
「租税教育」の項目	私たちの生活と税	税の意義・役割・課題	租税の役割	租税の役割と意義	租税の意義と課題	租税の意義と課題
		税の使いみち	私たちの暮らしと税	身近な暮らしと税	税金の使いみち	国民生活と税
		税の種類	税の種類	税の種類	税の種類・分類	税の種類・分類
	よりよい社会と税	民主主権	自分たちで決めたまじりや法を守ることの大切さ	日本国憲法の基本理念である国民主権	・民主主義の基礎にある個人の尊厳と人権の尊重という考え方 ・主権者としての政治参加の在り方	公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚
		納税の義務		納税の義務	私たちの生活と納税の義務	憲法に定められた権利と納税の義務
		公平な税		税はみんなで分担して納めていること	公平な税の考え方	公平な税の考え方
	政府の経済的役割と税	財政の目的		法令や予算との関わり	政府の経済的役割	政府の経済的役割
		財政の現状と課題			国民の受益(福祉・公共サービス)と負担の関係	公債発行と財政赤字
	主権者としての税	これからの社会と税				税に關する仕事
						自ら正しい申告・納税をすること(申告納税制度)

○参考2:小学校の学習内容と教材化の視点の例

(注) 1 URL及びQRコードは、令和6年6月1日現在のものを掲載しています。
2「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

授業において 取り上げたい 要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
私たちの暮らしと税	地図記号	「税務署」で検索し、地図記号がそろばんの玉の形をしていることに気付き、税務署が税金というお金を集める（計算する）公共施設であることを示す。	国土地理院HP (URL:https://www.gsi.go.jp/syouka.html)	
	レシートの消費税	レシートの消費税を確認し、児童も消費税を払っていることを示す。	- 地図 - レシート	
(以下、高学年)				
租税の役割と意義	災害の写真	神戸市のオープンデータ「阪神・淡路大震災『1・17の記録』」などを活用し、災害からの復興の過程（取り組み）を示す。	阪神・淡路大震災「1・17の記録」（神戸市の写真） (URL:http://www.kobe117shinsai.jp/fixed-point/)	
身近な暮らしと税	児童の一日の生活	「マリンとヤマト 不思議な日曜日」などを視聴し、一日の生活の例を通して身近な生活と税の関わりに気付き、安全、安心で豊かな生活など、みんなの願いが地方公共団体や国の働きによって実現されていること、その働きの費用は税で賄われていることを示す。	- 国税庁HP「税の学習コーナー（マリンとヤマト 不思議な日曜日）」 (URL:https://youtu.be/MivtD3Hh16M) - 財務省主税局×うんこ税金ドリル (URL:https://www.mof.go.jp/tax_policy/publication/brochure/zeikin_drill/index.html)	
	税のない生活	「ご案内します アナザーワールドへ」などを視聴し、税がなかったらどのような生活に変わってしまうのかを考えを地方公共団体や国の働き、その費用を賄う税の必要性を示す。	国税庁HP「税の学習コーナー（ご案内します アナザーワールドへ）」 (URL:https://www.nta.go.jp/taxes/kids/video/index.htm)	
	教育費	公立学校に通う児童一人当たりの月（年）間教育費を知り自分に使われている税金の多さに気付くよう促す。	国税庁HP「税の学習コーナー（学習・発展編）」 (URL:https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page06.htm)	
	1億円のレプリカ（みほん）	量や重さを体感させ、集める税や予算の大きさなどを示す（1億円の重さ10kgは、例えば、2Lペットボトル5本分と同じ位の重さであるなど、身近なものなどで例える。）。	国税庁HP「税の学習コーナー」 (URL:https://www.nta.go.jp/about/organization/tokyo/education/taiken/img/image013.JPG)	

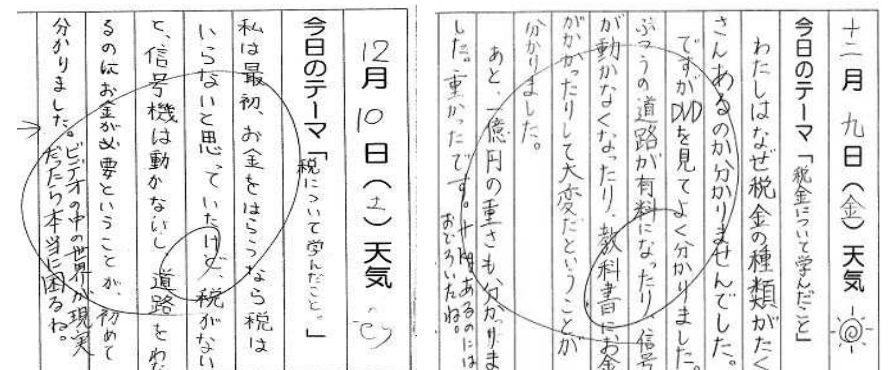
授業において 取り上げたい 要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
税の種類	税の種類	クイズにより種類の多さ（約 50 種類）に気付き、みんなが様々な形で税を分担していることに気付くよう促す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（Zei 君の税金クイズ）」 (URL: https://www.nta.go.jp/about/organization/kantoshinetsu/cgi-bin/quiz/quizindex.cgi)	
	外国の税	通称ポテトチップス税やソーダ税など外国の身近で分かりやすい税の種類を紹介し、税に対する関心を高める。		
日本国憲法の理念である国民主権	選挙	税の使いみちは選挙で選ばれた国民の代表者が国会で決めており、国民一人一人が政治や選挙、税の使いみちなどに関心をもつことの大切さを示す。	・ 総務省HP 主権者教育動画「18 歳になったら選挙に行こう！」 (URL: https://www.youtube.com/watch?v=uTeHQMb5pM)	
税はみんなで 分担して納め ていること	レシートの消費税	レシートの消費税を確認し、児童も消費税を払っていることを示す。	・ レシート	
	消費税の行方	消費税の行方を調べることで、税が社会を支えていることに気付くよう促す。	・ 財務省HP（消費税の使途に関する資料） (URL: https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/consumption/d05.htm)	
法令や予算との関わり	税金の使いみち	みんなが納めた税金の使いみちを知ることを通して税金がどのように役立っているのかを気付くよう促す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page13.htm)	

【児童の活動の様子】

- ・ 税に関する絵はがきコンクールへの作品



- ・ 租税教室実施後の日記から



○参考3:中学校の学習内容と教材化の視点の例

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
租税の意義と課題	財政を家計に例える	日本の財政を家計に例え、毎年赤字であることや借金が多さに気づき、財政の現状と問題を理解できるように指導する。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page14.htm)	
	借金時計	プロジェクター等で借金時計を見ることにより、財政赤字の現状を実感し、財政に対する関心を高めることができるように指導する。	・ 市区町村HP	
	歳出又は税がなかったら	社会保障、公共事業、教育、防衛、地方公共団体の財政調整などの歳出項目や、消費税や所得税などの歳入項目を一つ取り上げ、その歳出又は財源がなかったらどのような社会になるかを理解できるように指導する。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 ＜歳入＞ (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page12.htm) ＜歳出＞ (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page13.htm)	 
	歴史上の人物の言葉	「税の学習コーナー（応用編）」の税のエピソード・日本編「福澤諭吉と税」（「学問のすすめ」の中で、税は政府と国民との約束であると述べていること）を紹介し、税への関心を高めることができるように指導する。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page06.htm)	
税金の使いみち	教育費	公立学校に通う生徒一人当たりの月（年）間教育費の金額の多さに気づき、税が役立っていることが理解できるように指導する。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・発達編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page06.htm?)	
	外国の消防サービス	費用を払わず消火がされなかった米国テネシー州サウスフルトン市の消防の例を取り上げ、日本の公共サービスの財源を賄う税の役割や納税の義務などが理解できるように指導する。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（租税教育の事例集）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/kyozai/jireishu/index.htm)	

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
税金の使いみち	海賊	人気漫画の題材で生徒のイメージしやすい海賊を取り上げ、日本の税金が政府開発援助（ODA）として海賊対策に使われていることを紹介し、税の使途への関心を高めることができるように指導する。	・ 外務省HP「開発協力、ODA って何だろう」 (URL:https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/oda/oda.html)	
	ごみ処理	ごみ処理を自宅でする場合（捨て場所等の問題）と地方公共団体がまとめてする場合（リサイクル、清掃工場）の費用負担（令和4年度国民一人当たりのごみ処理経費約20千円）、環境（健康）への影響の違いなどを考え、環境を守る政治の働きとそれを支える税の役割が理解できるように指導する。	・ 環境省HP（一般廃棄物処理実態調査結果） (URL:https://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/index.html) ・ 市区町村HP	
	税金の使いみち	みんなが納めた税金の使いみちを知ることを通して税金がどのように役立っているのかを気付くよう促す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL:https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page13.htm)	
税の種類・分類	レシートの消費税	レシートの消費税を確認し、生徒も消費税を払っていることを示す。	・ レシート	
	消費税の行方	消費税の行方を調べることにより、税が社会を支えていることに気付くよう促す。	・ 財務省HP（消費税の使途に関する資料） (URL:https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/consumption/d05.htm)	
	ノーベル賞、オリンピック・パラリンピック	身近な話題として、ノーベル賞や2020年東京オリンピック・パラリンピックを取り上げ、ノーベル賞の賞金や日本のメダリストの賞金（報奨金）には、法律により税がかからないことに気付き、税に対する関心を高めることができるように指導する。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（Zei君の税金クイズ）」 (URL:https://www.nta.go.jp/about/organization/kantoshinetsu/cgi-bin/quiz/quizindex.cgi)	

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
民主主義の基礎にある個人の尊厳と人権の尊重という考え方	米国独立戦争	「税の学習コーナー（応用編）」の税のエピソード・アメリカ編「アメリカ人の税に対する思い」（税をきっかけとしてアメリカ独立戦争が起こったため、アメリカ人は税の使いみちなどに強い関心をもっている）を紹介し、納税者としての意識を高めることができるように指導する。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page05.htm)	
主権者としての政治参加の在り方	選挙の争点	選挙の争点は、税に関わるものや税を必要とするものが多いことに気付き、政治の働きの費用を賄う税の意義や役割、必要性を理解できるように指導する。	・ 文部科学省HP「小・中学校向け主権者教育指導資料『主権者として求められる力』を子供たちに育むために」の抜粋 (URL: https://www.mext.go.jp/content/220922-mxt-kyoiku01-000025143_8.pdf)	
私たちの生活と納税の義務	生徒の一日の生活	「マリンとヤマト 不思議な日曜日」などを視聴し、一日の生活の例を通して身近な生活と税の関わりに気付き、安全、安心で豊かな生活など、みんなの願いが地方公共団体や国の働きによって実現されていること、その働きの費用は税で賄われていることを示す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（マリンとヤマト 不思議な日曜日）」 (URL: https://youtu.be/MivtD3Hh16M)	
	会社員の一日	会社員の一日の生活の例を通して、生活と税との関わりに気付き、税の種類を理解できるように指導する。 ＜家＞住民税（住むこと）、固定資産税→＜会社＞法人税、所得税（給料）→＜外出＞自動車税、ガソリン税（揮発油税）、消費税（買い物）、相続税（葬儀場）→＜帰宅＞酒税、たばこ税など	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（ご案内します アナザーワールドへ）」 (URL: https://youtu.be/0V4Pvw6PCnU)	
私たちの生活と納税の義務	1万円札	予算額や借金を1万円札で積み上げた場合の高さを富士山の高さなどと比べて大きさが理解できるように指導する（100万円が約1cm、1億円が約1m、1兆円が約10km。積み上げた1万円札を横にすれば〇〇駅～〇〇駅間の直線距離〇〇kmと同じなど）。		

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
私たちの生活と納税の義務	街づくりゲーム	「税の学習コーナー」の「みんなで話し合っ街を作ろう！」の街づくりゲームを通して、税金が使われている施設・使われていない施設、予算が足りなくなった場合の対応などを考えるよう導く。	・国税庁HP「税の学習コーナー（みんなで話し合っ街を作ろう！）」 (URL:https://www.nta.go.jp/about/organization/osaka/education/machigame/index.htm)	
	諺「年貢の納め時」	諺を紹介。意味を紹介し税について理解できるように指導する（隠れて耕作していた田が見つかり、ごまかしていた年貢を納めなければならなくなったときなどを意味していたが（今でいう「脱税」）、悪事が見つかり刑に服さなければならぬときなどに使われるようになった。）。 →諺から、昔、税金は年貢であったことに気付かせる。 →諺から、税金は「取られる」ではなく、「納める」という言い方をすることを示す。 →現在、所得税など国税では、自ら正しい申告と納税を行う申告納税制度が採られていることを示し、それを支える税に関する仕事や税務行政の取り組みを紹介する。		
公平な税の考え方	税率の仕組み	所得税や相続税などの累進税率や、消費税・個人住民税などの比例税率（税率は一定だが、課税対象額が多くなれば税額が多くなる。令和6年4月現在）の仕組みを通して、垂直的・水平的な公平の考え方があることを示す。	・国税庁HP「税の学習コーナー（学習・発展編）」 (URL:https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page02.htm)	
政府の経済的役割	税のない生活	「ご案内します アナザーワールドへ」などを視聴し、税がなかったらどのような生活に変わってしまうのかを考えを地方公共団体や国の働き、その費用を賄う税の必要性を示す。	・国税庁HP「税の学習コーナー（ご案内します アナザーワールドへ）」 (URL:https://youtu.be/0V4Pvw6PCnU)	

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
国民の受益（福祉・公共サービス）と負担の関係	社会保障費と教育費	国民医療費などの社会保障関係費と教育費（文教及び科学振興費）を比べ、社会保障関係費の大きさ（多さ）に気付くよう指導する。	・財務省HP「日本の『財政』を考えよう」 (URL:https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202404_zaisei.pdf) ・国税庁HP「税の学習コーナー（学習・発展編）」 (URL:https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page04.htm)	 

○参考4:高等学校の学習内容と教材化の視点の例

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
租税の意義と課題	歴史上の人物の言葉	福澤諭吉の言葉等を紹介し、税の意義を示す。	・ 国税庁HP（「税の学習コーナー（応用編）」） (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page06.htm)	
	米国独立戦争	「税の学習コーナー（応用編）」の税のエピソード・アメリカ編「アメリカ人の税に対する思い」（税をきっかけとしてアメリカ独立戦争が起こったため、アメリカ人は税の使いみちなどに強い関心をもっている）を紹介し、納税者としての意識を高めることができるように促す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page05.htm)	
	借金時計	プロジェクター等で借金時計を見ることにより、財政赤字の現状を示し、財政に対する関心を高めることができるようにする。	・ 市区町村HP	
	家計への例え	日本の財政を家計に例え、毎年赤字であることや借金の多さに気付き、財政の現状と問題を示す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page14.htm)	
国民生活と税	教育費	公立学校に通う生徒一人当たりの年間教育費の金額の多さに気付き、税が役立っていることを示す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・発達編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page06.htm?)	

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
国民生活と税	会社員の納税額と教育費	給与収入 700 万円の会社員の所得税と個人住民税等の税負担額（約 39 万円・令和 6 年分以降の課税ベース）と、公立学校に通う高校生（全日制）一人当たりの年間教育費の国・地方公共団体の負担額（約 113 万円・令和 3 年度）とを比べ、受益と負担について考えるきっかけを与える。	・国税庁HP「税の学習コーナー（学習・発達編）」 (URL:https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page02.htm) (URL:https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page06.htm?)	 
	地球温暖化対策税	日本の地球温暖化対策のための税などを紹介し、税には政策目的を実現するための機能があることを示す。	・環境省HP「地球温暖化対策のための税の導入」 (URL:https://www.env.go.jp/policy/tax/about.html)	
	贈与税の非課税	若年世代への資産移転等を図るため、子や孫に対する教育資金の贈与税の非課税措置が設けられていることを紹介し、税の政策目的実現のための機能があることを示す。	・財務省HP「贈与税に関する資料」 (URL:https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/property/e06.htm)	
税の種類・分類	税の国際比較	各国の税率などを比較した表を調べ、国によって税の仕組みや税率が異なることを示す（各国の税制は、その国の歴史や文化、経済や社会の仕組み等を反映して構築）。	・国税庁HP「税の学習コーナー（学習・発達編）」 (URL:https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page13.htm)	
	ふるさと納税	ふるさと納税は、自分が応援したい自治体に寄附をする制度であり、原則として寄附をした額のほぼ全額が所得税と住民税から軽減されるため、結果として寄附をした自治体に税金を納めたことと同じような効果が生まれる仕組みであることを知り、税の使いみちに対する関心を高める。	・総務省HP「ふるさと納税ポータルサイト」 (URL:https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/about/)	
	税金の使いみち	みんなが納めた税金の使いみちを知ることを通して税金がどのように役立っているのかを気付くよう促す。	・国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page13.htm)	

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
憲法に定められた権利と納税の義務	憲法 30 条	なぜ「納税の義務」が憲法で定められているのかを示す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page07.htm)	
法の支配（租税法主義）	最高裁判決	最高裁の判決要旨を紹介し、税の意義や納税の義務に対する理解を深めるよう指導する（「およそ民主主義国家にあつては、国家の維持及び活動に必要な経費は、主権者たる国民が共同の費用として代表者を通じて定めるところにより自ら負担すべきものであり、我が国の憲法も、かかる見地の下に、国民がその総意を反映する租税法に基づいて納税の義務を負うことを定め（30 条）、新たに租税を課し又は現行の租税を変更するには、法律又は法律の定める条件によることが必要（84 条）」）。	・ 昭和 60 年 3 月 27 日最高裁判決（いわゆる、サラリーマン税金訴訟判決）	
公平な税の考え方	税率の仕組み	所得税や相続税などの累進税率や、消費税・個人住民税などの比例税率（税率は一定だが、課税対象額が多くなれば税額が多くなる。令和 6 年 4 月現在）の仕組みを通して、垂直的・水平的な公平の考え方があることを示す。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（学習・発展編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page02.htm)	
公平な税の考え方、公正で適切な負担、負担と受益の均衡（応能負担と応益負担）	応能負担と応益負担	ワークを活用し、課税の公平性について説明する。	・ 国税庁HP「税の学習コーナー（高校生用教材）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/kyozai/koko/files/0023002-075_07.pdf)	

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
政府の経済的役割、国民経済における政府の役割	国や地方公共団体の仕事	各省庁や地方自治体のHPを調べ、国や地方自治体の仕事や役割を示す。	・省庁や自治体HP	
	歳出の内訳	歳出の内訳を調べ、国民の政府の財政支出に対する要望には、どのようなものがあるかを示す。	・国税庁HP「税の学習コーナー（学習・応用編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page13.htm)	
	歳出額の比較	歳出全体の金額を過去と比較し、全体として財政支出が増えていることを示す。また、どの歳出項目が増えているのかを調べるとともに、考えるきっかけを与える。	・財務省HP「財政に関する資料」 (URL: https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/condition/a02.htm)	
	憲法の前文	公共サービスの便益享受について、憲法前文に「(国政の) 福利は国民がこれを享受する」とあることを示す。	・衆議院HP「日本国憲法」 (URL: https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_annai.nsf/html/statics/shiryo/dl-constitution.htm)	
公債発行と財政赤字、税・財政の課題（財源の調達と配分）	消費税の使いみち	生徒に身近な消費税の使いみち（社会保障財源化）を調べることを通して、社会保障と税の一体改革の背景や趣旨、内容などを示す。	・財務省HP「消費税の使途に関する資料」 (URL: https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/consumption/d05.htm)	
	少子高齢社会における社会保障の充実・安定化	少子高齢化における社会保障の充実・安定化に向け、政府の役割として考えられることは何か、また、持続可能な社会保障の在り方はどうあるべきかについて、考えるきっかけを与える。	・厚生労働省HP「社会保障教育」 (URL: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/kyouiku/index.html)	
	税収の推移	主要な税目の税収の推移及びその背景を調べ、税制が経済社会と密接に関連していることを示す。	・財務省HP「税収に関する資料」 (URL: https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/condition/a03.htm)	

授業において取り上げたい要素	学習活動		教材・資料 (URL)	QRコード
	素材	指導上の留意点		
公債発行と財政赤字、税・財政の課題（財源の調達と配分）	租税回避	タックス・ヘイブンや多国籍企業への課税問題などに関する新聞記事を調べ、国際的な課税逃れ（租税回避）が問題となっていること、並びにその背景（経済活動の国際化や各国の税制の違いなど）、その影響（租税回避による税収不足など）及びその対応策（租税条約に基づく情報交換の実施など）の現状などについて示す。	国税庁HP「Web-TAX-TV」 (URL: https://www.nta.go.jp/publication/webtaxtv/200910/webtaxtv_wn.html)	
	公債発行額の推移	日本の財政は、歳出が税収を上回る状況が続いており、その差を公債によって賄われていることを示す。	財務省HP「財政に関する資料」 (URL: https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/condition/a02.htm)	
税に関する仕事、自ら正しい申告・納税をすること（申告納税制度）	アルバイト代の確定申告	「税の学習コーナー」（実践編又は高校生用教材の申告書作成編）やパソコン等で申告書が作成できる「確定申告書等作成コーナー」を活用し、源泉徴収票の見方などを学び、所得税の確定申告書の作成を体験する。	国税庁HP「税の学習コーナー（実践編）」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/kids/jissen/index.htm)	
	働き方の多様化	給与所得者がネットオークション等により副収入を得た場合について説明する。	国税庁HP「タックスアンサー」 (URL: https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/taxanswer/shotoku/1906.htm)	
	マイナンバー制度	国民一人一人が番号をもつマイナンバー制度の趣旨（国民の利便性の向上、行政の効率化及び公平・公正な社会の実現）などを示す。	デジタル庁HP「マイナンバー（社会保障・税番号制度）」 (URL: https://www.digital.go.jp/policies/mynumber/)	

○国税庁ホームページ「税の学習コーナー」の紹介

検索サイトで **税の学習コーナー** を入力

- ・ 学習ページ（入門編、発展編、応用編、実践編）
 - ・ 租税教育用教材（租税教育の事例集、教材（パワーポイント・PDF）、講師用マニュアル、ワークシート）
 - ・ ビデオライブラリー
 - ・ ゲーム
 - ・ クイズ
 - ・ 税の作文（受賞者発表など）
 - ・ 各国税局学習コーナー
- などを掲載していますので、御活用ください。

(URL)

<https://www.nta.go.jp/taxes/kids/index.htm>



○監修

事例集の作成に当たり、以下の方々に御指導、御協力を賜りました。

(敬称略。学校名・職名などは監修依頼時。)

【平成 27 年 4 月発行版】

- | | | |
|------------------|-----|-----|
| ・ 和歌山大学准教授 | 岩 野 | 清 美 |
| ・ 埼玉県立川越初雁高等学校教諭 | 池 田 | 美友貴 |
| ・ 横浜市立丸山台小学校教諭 | 大久保 | 房 代 |
| ・ 東京都立国際高等学校教諭 | 宮 崎 | 三喜男 |
| ・ 大阪市立蒲生中学校校長 | 吉 信 | 勝 之 |

【令和 5 年 11 月改訂版】

- | | | |
|------------------|-----|-----|
| ・ 和歌山大学准教授 | 岩 野 | 清 美 |
| ・ 横浜市立六つ川小学校教諭 | 大久保 | 房 代 |
| ・ 慶應義塾横浜初等部教諭 | 白 井 | 敦 子 |
| ・ 山脇学園中学校教諭 | 中 田 | 成 昭 |
| ・ 東京都立田園調布高等学校教諭 | 宮 崎 | 三喜男 |